

## 添付書類 3

# 共通報告基準ユーザーガイド

### 第 3.0 版

(CRS schema version 2.0)

## はじめに

OECD は G20 諸国と協働し、報告、デューデリジェンス及び金融口座情報の交換に関する共通基準を策定した。この共通基準の下で、各国は、共通の報告及びデューデリジェンス規則に基づき金融機関が特定した全ての報告対象口座に関する金融情報を、必要に応じ報告金融機関から取得し、相手国と年に一度自動的に交換する。

この共通基準をサポートする技術的ソリューションは、スキーマとその説明である。

スキーマとは、情報を電子的かつ大量に保有し、送信するためのデータ構造である。XML「拡張可能マークアップ言語」は、この目的で共通して使用される。OECD の標準送信フォーマット「STF」又は欧州貯蓄課税指令のための情報交換に使用される Fisc 153 フォーマットなどがスキーマの例である。

本ユーザーガイドでは、CRS XML スキーマ v. 2.0 で報告すべき各 CRS データ要素に含む必要のある情報を説明する。また、自動処理可能なファイル内のデータ項目の訂正方法に関するガイダンスも含んでいる。

## CRS スキーマへの CRS ユーザーガイドのリンク方法

このユーザーガイドはスキーマに基づく論理セクションに分割されており、具体的なデータ要素及びそのデータ要素を説明する属性を提供する。

CRS スキーマ情報セクションは、以下のとおり。

- 1 Message Header (メッセージヘッダー) : 送信者、受信者、メッセージタイプ、報告対象期間
- 2 個人 : 実質的支配者又は口座名義人の詳細
- 3 事業体 : 口座名義人
- 4 CRS Body (CRS 本文) : Reporting FI (報告金融機関)、Reporting Group (報告グループ) 及び口座の詳細

各セクション番号は、付属書 A の図表の番号に反映されている。

CRS XML スキーマは、権限ある当局 (「CA」) 間での金融口座情報の自動的交換に使用するために設計されている。更に、当該 CRS XML スキーマは CRS に基づく金融機関 (「FI」) から国内税務当局への国内報告にも使用できる。国内報告のみに関する項目は [かっこ] で示している。

CRS スキーマは、FATCA スキーマ及び STF の要素を再利用しているため、CRS に基づく報告及び交換には必要のない CRS スキーマの要素がある (Pool Report (プール報告)、Nationality (国籍) など)。このような要素は、ユーザーガイドでは Optional として、「non-CRS」と表示している。

「non-CRS」のコメントもまた、付属書 A の図表の該当箇所に表示している。

CRS XML スキーマ及びそのユーザーガイドでは、不記録口座、閉鎖口座など、CRS に特有の要素を提供している。

各データの要素とその属性の要件 (Requirement) のフィールドは、その要素がスキーマに Validation (必須) か Optional (任意) かを示している。スキーマでは、あらゆる要素はいずれか一方になる。

「Validation」要素は、ファイル中の全ての記録に存在しなければならない、自動化された認証チェックを行うことができる。送信者は、データファイルの内容を、XML ツールを使用して技術的チェックを行い、全ての「Validation」要素が存在することを確認し、ない場合にはファイルを訂正しなければならない。受信者もまたそのチェックを行うことができ、正しくない場合には、そのファイルを拒絶できる。1

つの親 Validation に基づく 2 つの Validation 要素の間で選択ができ、かつ一方のみが必要とされる場合、「Validation (choice)」と示される。要素が親 Optional に基づく場合、「Optional」と示される。

スキーマに「Optional」である要素に関しては、異なるビジネスルールがある場合がある。

- **Optional** フィールドの中には、「(Optional) Mandatory (必須)」と示されるものがある。これは、Optional 要素であるが、情報の入手可能性又は法的要因次第で、CRS の報告要件に規定されることから、CRS 報告が求められるものである。Mandatory 要素は、ほとんどの（ただし、全てではない）状況に存在することがある。そのため、これらのフィールドをチェックする単純な IT 認証手続はない（例えば、CRS では、報告金融機関は、①口座名義人の TIN がその居住地国から発行されている場合に限り、その TIN を報告する必要があり、②出生地を保持し報告することが別途必要とされ、電子的に検索可能な記録によって保持されている場合に限り、その出生地を報告する必要があると規定されている）。
- **Optional** 要素は、いくつかのタイプのうちの 1 つを使用すべき場合に、あるタイプと別のタイプ（例えば、固定形式の住所又は自由形式の住所）との間で選択肢を示すことがある。この場合、「Optional」の要件であると示されている。
- データ要素には、スキーマの認証にも CRS にも必要ないことがある。「Optional (non CRS)」と表示されている場合、当該要素は、CRS のみのファイルでは、報告すべきではない。

CRS ユーザーガイドの付属書 A は、CRS XML スキーマの図式的描写を全ての要素とともに表示したものである。見出しの次の番号は、ユーザーガイド本文中の対応するセクションの番号である。

CRS ユーザーガイドの付属書 B には、CRS XML スキーマの名前空間の用語集がある。

## 共通報告基準（CRS）スキーマに関する情報

### 1. Message Header（メッセージヘッダー）

メッセージヘッダー内の情報では、そのメッセージを送信している税務当局を識別する。メッセージの作成時期、その報告の対象期間（通常1年）及びその報告の性質（初回、訂正、補足など）を特定する。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
SendingCompanyIN		1~200 文字	stf:StringMin1Max200_Type	Optional

[CRS では権限ある当局間の情報交換には使用されないが、国内報告では、送信会社の SendingCompanyIdentificationNumber（識別番号）要素は「Mandatory」になり、送信税務当局に報告する金融機関を国内 TIN（又は IN）により識別する。]

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
TransmittingCountry		2 文字	iso:CountryCode_Type	Validation

このデータ要素では、報告金融機関が報告対象口座を管理している国、又は報告金融機関が報告対象の支払を行う国を識別する。送信者が税務当局である場合、TransmittingCountry（送信国）は当該税務当局の国である。このデータ要素では、ISO 3166-1 Alpha 2 規格に基づき、英字 2 文字の国コード及び国名リスト<sup>1</sup>を使用している。

[国内報告では、この要素は、自国の国コードになると考えられる。]

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
ReceivingCountry		2 文字	iso:CountryCode_Type	Validation

このデータ要素では、メッセージの受信者として予定される税務当局（権限ある当局）の国を識別する。このデータ要素では、ISO 3166-1 Alpha 2 規格に基づき、英字 2 文字の国コードを使用している。

[国内報告では、この要素は、自国の国コードになると考えられる。]

1 以下の免責条項では、CRS スキーマにおける ISO の国名コードリストに係る全ての使用について、言及されている。「実務上の理由により、リストは ISO 3166-1 国名コードリストに基づいており、これは現在銀行及びその他の金融機関が使用しており、したがって税務当局も使用している。当該リストを使用することによって、OECD は、掲載されている地域の法的地位に関連して何であれいかなる意見を表明することも示唆するものではない。当該リストの内容は、いかなる地域に関する地位又は主権、国際的な境界及び国境の画定並びにいかなる地域、都市又は区域の名称にも何らの影響を与えるものではない。」

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
MessageType			crs:MessageType_EnumType	Validation

このデータ要素では、送信中のメッセージのタイプを特定する。CRS AEOI のこのフィールドで唯一許容される入力は、「CRS」である。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
Warning		1~4000 文字	stf:StringMin1Max4000_Type	Optional

このデータ要素は、自由形式のテキストフィールドで、CRS のメッセージ内容の使用についての具体的な注意指示を入力できる。例えば、データ交換の基礎となる法的文書又は条約の条項などである。報告されたデータが報告年全体ではない期間についてのものである場合、この情報は、ここでは「10 か月間」などの説明文として入力する。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
Contact		1~4000 文字	stf:StringMin1Max4000_Type	Optional

このデータ要素は自由形式のテキストフィールドで、メッセージ送信者の具体的な連絡先情報の入力が可能である。[国内報告に限り、金融機関又は第三者の連絡先を入力できる。]

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
MessageRefID		1~170 文字	stf:StringMin1Max170_Type	Validation

このデータ要素は、送信している特定のメッセージを識別する送信者の一意のメッセージ識別子（送信者が作成）を入力する自由形式のテキストフィールドである。この識別子によって、送信者と受信者双方が、疑問点又は訂正が発生した場合に具体的なメッセージを後で識別できる。権限ある当局間の情報交換の場合、最初の部分は送信国の国コード、2番目の部分はデータが関係する年（報告期間の開始する年が望ましいが終了する年でも可）、3番目の部分は受信国の国コードで、その後送信国が作成した一意の識別子（「国パート」）としなければならない。

[CRS スキーマを国内報告に使用する場合、金融機関は、MessageRefID の中に、自らが作成した一意の識別子の冒頭に金融機関識別番号を入れることができるだろう。これは、良い取組みとして推奨される。]

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
MessageTypeIndic			crs:CrsMessageTypeIndic_EnumType	Validation

このデータ要素により、送信者は、送信するデータのタイプを定義することができる。この要素は、データが新規のものか訂正されたものかを識別する（以下の訂

正手続のガイダンスを参照)。メッセージには、全ての新規データ、全ての訂正/削除データ、又は報告するデータはない旨の通知を含まなければならない。

許容される値は以下のとおり。

- ・ CRS701=メッセージに新規情報が含まれている。
- ・ CRS702=メッセージに以前に送信した情報の訂正/削除が含まれている。
- ・ CRS703=メッセージによると報告するデータはない。

[MessageTypeIndic は国内において、金融機関が自らの顧客のデータを適切にチェックしたが、報告するデータは存在しないということを示す場合（事実上の「Nil return」）に使用することができる。

そのような場合、MessageTypeIndicはCRS703の値となり、CrsBodyとReportingFIが提供される一方、Account Report（セクション IVc）は省略される。]

MessageTypeIndic は権限ある当局間において、報告するデータがないことを示す場合（事実上の「nil return/zero data message」）にも使用することができる。

そのような場合、MessageTypeIndic は CRS703 の値となり、CrsBody は省略される。これは、CrsBody が省略される唯一の場合であり、それ以外の場合、CrsBody は提供されなければならない。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
CorrMessageRefID		1~170 文字	stf:StringMin1Max170_Type	Optional (non CRS)

この要素は CRS XML スキーマの文脈では使用されない。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
ReportingPeriod			xsd:date	Validation

このデータ要素では、メッセージが関係する報告対象期間（通常税務年度）末日を YYYY-MM-DD フォーマットで識別する。例えば、暦年 2014 年における口座や支払の報告情報の場合、このフィールドは「2014-12-31」のようになる。例外的に報告対象期間が 1 年でない場合、「Warning（注意）」に報告対象期間を記載する。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
Timestamp			xsd:dateTime	Validation

このデータ要素では、メッセージを作成した日時を識別する。この要素はホストシステムにより自動的に入力されることが期待される。使用する形式は、YYYY-

MM-DD'T'hh:mm:ss.nnn である。秒の端数が使用されることもある。（その場合、ミリ秒は上記形式の“.nnn”のとおり3桁で示される。）例：2015-03-15T09:45:30 又は 2015-03-15T09:45:30.789（ミリ秒有り）。

## 2. PersonParty\_Type

このセクションのデータ要素は、個人の口座名義人又は受動的 NFE（非金融機関）の実質的支配者に使用する。この複合型要素は以下のデータ要素で構成されている。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
ResCountryCode		2 文字	iso:CountryCode_Type	Validation

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
TIN		1~200 文字	cfc:TIN_Type	(Optional) Mandatory

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
Name			crs:NamePerson_Type	Validation

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
Address			cfc:Address_Type	Validation

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
Nationality			iso:CountryCode_Type	Optional (non CRS)

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
BirthInfo				(Optional) Mandatory

### 2a. ResCountryCode

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
ResCountryCode		2 文字	iso:CountryCode_Type	Validation

このデータ要素では、報告される個人の税務上の居住地国コードを記述し、権限ある当局間の CRS AEOI では、全てのデータ記録に記載しなければならない。

複数の居住地国がある場合、報告対象者である実質的支配者を含む報告対象者の居住地国ごとに、事業体の詳細とともに個別の報告が必要である。

[国内報告では、個人が複数国の税法上の居住者であることが証明されるか、又はそのようにみなした場合、このデータ要素を繰り返し、データを税務当局に送信しなければならない。また、不記録口座については、自国の国コードの使用を義務付けることも望ましい。当該口座は、権限ある当局間では交換されない。]

報告対象者に適用されると特定した全ての居住地国のコードを含む完全な情報は、全ての居住地国の権限ある当局に送信することができる。これによって、多数の報告に付随する双方居住状態やその他の問題を解決する必要性を認識することができる。権限ある当局は、各居住地国に対して、全ての報告対象居住地国を示すデータ記録を送信することが推奨されている。

これとは別に、ある状況の下では、送信国は、受信国の居住地国コードのみを含むデータをそれぞれの受信国に送信することを選択し、必要がある場合には、適用される法的文書に従って、複数の居住地国に関連する情報を交換する別の方法を用いることができる。

## 2b. TINType

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
TIN		1~200 文字	cfc:TIN_Type	(Optional) Mandatory

このデータ要素では、個人の口座名義人を識別するために受信側の税務当局が使用する納税者番号（TIN）を識別する。TIN は、（入手可能であれば）CRS で指定したとおりに提供しなければならない。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
TIN	issuedBy	2 文字	iso:CountryCode_Type	(Optional) Mandatory

この属性では、TIN の発行国を識別する。発行国が不明の場合、これは空白のままにすることができる。

## 2c. NamePerson\_Type

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
NamePerson_Type	nameType		stf:OECDNameType_EnumType	Optional



このデータ要素では、金融機関は、出生時の名前及び婚姻後の名前の両方を報告することができる。

### OECDNameType\_EnumType

CRS の個人又は事業体が複数の名前を持つ可能性がある。これは個々の名前のタイプを特定する識別子である。当該タイプには、ニックネーム（「nick」）、当事者がビジネスで用いる名前（「dba」、事業体の省略名、又は一般に親しまれるよう正式な商号の代わりに用いる名前）等が含まれる。

許容される値は以下のとおり。

- OECD201= SMFAliasOrOther（SMF による通称名など）（CRS では使用しない）
- OECD202= indiv（個人名）
- OECD203= alias（通称名）
- OECD204= nick（ニックネーム）
- OECD205= aka（別名）
- OECD206= dba（ビジネス上の名前）
- OECD207= legal（正式名）
- OECD208= atbirth（出生時の名前）

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
PrecedingTitle		1~200 文字	stf:StringMin1Max200_Type	Optional

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
Title		1~200 文字	stf:StringMin1Max200_Type	Optional

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
FirstName		1~200 文字	stf:StringMin1Max200_Type	Validation

このデータ要素は、CRS 報告に必要である。メッセージを送信する報告金融機関又は税務当局が、個人の口座名義人又は実質的支配者の完全なファーストネームを把握していない場合、ここにイニシャル又は NFN（「ファーストネームなし」）を入力できる。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
FirstName	xnlNameType	1~200 文字	stf:StringMin1Max200_Type	Optional

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
MiddleName		1~200 文字	stf:StringMin1Max200_Type	Optional

このデータ要素では、個人の名ドルネームを指定できる。このデータは、CRS 報告では **Optional** である。報告金融機関がミドルネーム又はイニシャルを把握していれば、ここに入力できる。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
MiddleName	xnlNameType	1~200 文字	stf:StringMin1Max200_Type	Optional

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
NamePrefix		1~200 文字	stf:StringMin1Max200_Type	Optional

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
NamePrefix	xnlNameType	1~200 文字	stf:StringMin1Max200_Type	Optional

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
LastName		1~200 文字	stf:StringMin1Max200_Type	Validation

このデータ要素は、CRS 報告に必要である。メッセージを送信する報告金融機関又は税務当局は、個々の口座名義人のラストネームを記載する必要がある。このフィールドには、口座名義人が合法的に使用する prefix (敬称) や suffix (称号) を含めることができる。

可能な限り、構造的なファーストネーム及びラストネームを使用すべきであるが、要素は文字列であるため、これを自由な様式の名前又は2つのラストネームに使用することも可能である。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
LastName	xnlNameType	1~200 文字	stf:StringMin1Max200_Type	Optional

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
GenerationIdentifier		1~200 文字	stf:StringMin1Max200_Type	Optional

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
Suffix		1~200 文字	stf:StringMin1Max200_Type	Optional

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
GeneralSuffix		1~200 文字	stf:StringMin1Max200_Type	Optional

## 2d. Address\_Type

このスキーマでの Address（住所）のタイプには AddressFix（固定形式の住所）及び AddressFree（自由形式の住所）の2つのオプションがある。メッセージを送信する報告金融機関又は税務当局が口座名義人の住所の各部分を明確にできない場合を除き、全ての CRS 報告には AddressFix を使用しなければならない。

このデータ要素は、例えば個人の口座名義人の定住所である。もし、報告金融機関や税務当局のファイルに個人の定住所の情報がない場合、当該住所は、金融機関が報告を作成する際に個人の口座名義人に連絡するために使用する郵送先住所になる。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
CountryCode		2 文字	iso:CountryCode_Type	Validation

このデータ要素では、口座名義人の住所に関連付けられた国コードを入力する。[不記録口座については、いかなる住所も使用できないため、自国の国コードを使用する。住所では、何らかのデータ項目を入力する必要があるため、実際の住所ではなく「undocumented（不記録）」を使用することが可能である。]

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
AddressFree		1~4000 文字	stf:StringMin1Max4000_Type	Optional*

このデータ要素では、自由形式のテキストでの住所情報の入力が可能である。ユーザーが「AddressFree」要素に、より構造化されていない方法で必要なデータを入力するオプションを選択する場合、全ての利用可能な住所の詳細は、住所の各部分の間に、空白若しくは「/」（スラッシュ）又はキャリッジリターン（CR）及びラインフィード（LF）を区切り文字として使用して、バイト文字列で表示されなければならない。\* このオプションを使用できるのは、データを AddressFix 形式で表現できない場合だけである。

注：メッセージを送信する報告金融機関又は税務当局が AddressFix を選択する場合、関連する固定要素を使用するのではなく、AddressFree 要素に口座名義人の完全な所在地住所を入力するオプションがある。この場合であっても、City（都市）、

Subentity（下位構成要素）及び Postal code（郵便番号）の情報を適切な固定要素にも入力しなければならない。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
AddressType	legalAddressType		stf:OECDLegalAddressType_EnumType	Optional

### OECDLegalAddressType\_EnumType6

これは住所の属性のデータ型であり、当該住所の法的性格（居住用、事業用など）を示している。

許容される値は以下のとおり。

- ・ OECD301= residentialOrBusiness（居住用又は事業用）
- ・ OECD302= residential（居住用）
- ・ OECD303= business（事業用）
- ・ OECD304= registeredOffice（登記上の事務所）
- ・ OECD305= unspecified（詳細不明）

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
Street		1~200 文字	stf:StringMin1Max200_Type	Optional

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
BuildingIdentifier		1~200 文字	stf:StringMin1Max200_Type	Optional

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
SuiteIdentifier		1~200 文字	stf:StringMin1Max200_Type	Optional

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
FloorIdentifier		1~200 文字	stf:StringMin1Max200_Type	Optional

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
DistrictName		1~200 文字	stf:StringMin1Max200_Type	Optional

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
POB		1~200 文字	stf:StringMin1Max200_Type	Optional

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
PostCode		1~200 文字	stf:StringMin1Max200_Type	Optional

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
City		1~200 文字	stf:StringMin1Max200_Type	Validation

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
CountrySubentity		1~200 文字	stf:StringMin1Max200_Type	Optional

上記のデータ要素により、AddressFix タイプは構成されている。「City」データ要素はスキーマの認証に必要である。PostCode（郵便番号）はそれが存在する場合、常に入力しなければならない。口座名義人の所在地住所に属する情報はここに入力するか、又は AddressFree データ要素に入力できる。

## 2e. Nationality

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
Nationality		2 文字	iso:CountryCode_Type	Optional (non CRS)

このデータ要素は、CRS には必要ないため、この項目を入力してはならない。

## 2f. BirthInfo

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
BirthDate			xsd:date	(Optional) Mandatory

このデータ要素では、個人の口座名義人の生年月日を識別する。生年月日は、CRS に基づいて報告が求められていない場合は、空白のままにすることができる（これは、既存口座で、報告金融機関の記録では生年月日が入手できない場合で、当該報告金融機関が国内法令に基づいて別途収集することを求められていないときに生じうる）。

データの形式は YYYY-MM-DD である。

以下の3つのデータ要素は、特に出生地に適用し、金融機関が国内法令に基づいて当該情報の取得及び報告を求められている場合で、電子的に検索可能な記録で入手できる場合は、CRS ガイダンスに従って提供することができる。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
City		1~200 文字	stf:StringMin1Max200_Type	Optional

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
CitySubentity		1~200 文字	stf:StringMin1Max200_Type	Optional

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
CountryInfo				Optional

このデータ要素では、現在の国（2文字の国コードで識別）又は以前の国（名前で識別）との間で選択ができる。出生地が報告される場合、「City」又は「City」及び「CitySubentity」とともに、そのいずれかが入力されなくてはならない。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
CountryCode		2 文字	iso:CountryCode_Type	Optional

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
FormerCountryName		1~200 文字	stf:StringMin1Max200_Type	Optional

### 3. OrganisationParty\_Type

この複合型要素では、Individual（個人）に対して、Entity（事業体）の口座名義人の名前を識別する。

以下の4つのデータ要素で構成されている。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
ResCountryCode		2 文字	iso:CountryCode_Type	(Optional) Mandatory

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
IN		1~200 文字	crs: OrganisationIN_Type	(Optional) Mandatory

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
Name		1~200 文字	cfc:NameOrganisation_Type	Validation

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
Address			cfc:Address_Type	Validation

### 3a. ResCountryCode

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
ResCountryCode		2 文字	iso:CountryCode_Type	(Optional) Mandatory

このデータ要素では、報告を行う事業者又は報告される事業者の税務上の居住地国コードを記述する。

### 3b. Entity IN (OrganisationIN\_Type)

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
IN		1~200 文字	crs: OrganisationIN_Type	(Optional) Mandatory

このデータ要素では、送信側及び／又は受信側の税務当局が事業者の口座名義人を識別するために使用する IN（識別番号）を記載する。CRS では、これは米国 GIIN、TIN、会社登記番号、グローバル事業者識別番号（EIN）又は税務当局が指定するその他の同様の識別番号になることがある。

2 番目の IN があれば、このデータ要素を繰り返すことができる。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
IN	issuedBy	2 文字	iso:CountryCode_Type	Optional

この属性では、IN の発行国を記述する。発行国が不明の場合、これは空白のままにすることができる。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
IN	INType	1~200 文字	stf:StringMin1Max200_Type	Optional

この属性では、送信している識別番号（米国 GIIN、EIN、TIN など）のタイプを定義する。可能な値は、通常、権限ある当局間で合意しなければならない。

### 3c. Organisation Name

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
Name		1~200 文字	cfc:NameOrganisation_Type	Validation

報告対象事業者の正式名称

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
Name	nameType		stf:OECDNameType_EnumType	Optional

#### 4. CRS Body (CRS 本文)

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
CrsBody			crs:CrsBody_Type	(Optional) Mandatory

CRS Body は、「Reporting FI (報告金融機関)」と「Reporting Group (報告グループ)」要素で構成されている。

CRS Body は MessageTypeId が CRS703 (Nil Reporting) で SendingCompanyIN が省略されている場合 (つまり権限ある当局間同士の Nil Reporting の場合) にのみ、省略することができる。それ以外の場合、CRS Body は提供されなければならない。

##### 4a. Reporting FI (報告金融機関)

報告対象口座の管理又は報告対象の支払を行う金融機関を識別する。

報告金融機関又は税務当局では、OrganisationParty\_Type を使用して識別情報を提供する。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
ReportingFI			crs:CorrectableOrganisationParty_Type	Validation

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
DocSpec			stf:DocSpec_Type	Validation

DocSpec では、送信している CRS メッセージ中の特定の報告を識別する。これにより、訂正が必要な報告を識別できる (以下の訂正に関するガイダンスも参照)。

##### 4b. Reporting Group (報告グループ)

このデータ要素では、メッセージを送信する報告金融機関又は税務当局が送信する CRS 報告についての特定の詳細事項を記載する。

スキーマではこの要素は繰り返しが可能だが、CRS では、各 CrsBody について 1 つの ReportingGroup だけが記載できることになっている。AccountReport (口座報告) は必要に応じて繰り返さなければならない。



要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
ReportingGroup			crs:CorrectableOrganisationParty_Type	Validation

Reporting Group は、以下の 4 つのデータ要素で構成されている。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
Sponsor			crs:CorrectableOrganisationParty_Type	Optional (non CRS)

金融機関が第三者を使用して、自らに代わって CRS について情報を提出する場合、この要素は使用しないが、連絡先の詳細を「Contact (連絡先)」の要素に記載できる。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
Intermediary			crs:CorrectableOrganisationParty_Type	Optional (non CRS)

#### 4c. Account Report (口座報告)

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
AccountReport			crs:CorrectableOrganisationParty_Type	(Optional) Mandatory

AccountReport は、CRS においては必須である (MessageTypeIndicCRS703 を国内で使用し、報告するデータがない旨を示している場合は除く)。その他の場合は全て、AccountReport の項目を入力しなければならない。AccountReport には、CorrectableAccountReport\_Type に基づき以下のデータ要素がある。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
DocSpec			stf:DocSpec_Type	Validation

DocSpec では、送信している CRS メッセージ中の特定の報告を識別する。これにより、訂正を必要とする報告を識別できる。訂正に関するガイダンス及び DocSpec Type の記述を参照すること。

#### 4d. Account Number (口座番号)

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
AccountNumber		1~200 文字	crs:FIAccountNumber_Type	Validation

金融機関が口座を識別するために使用する口座番号を記載する。金融機関に口座番号がない場合は、金融機関が口座を識別するために使用する機能的に同等の一意の識別子を記載する。

口座番号（英数字の識別子を含む）がある金融機関では必須である。

例：口座番号は、(i) 保管口座又は預金口座の口座番号、(ii) 投資持分又は債権持分に関連するコード（ISIN その他）（保管口座で保管していない場合）又は (iii) キャッシュバリュー保険契約又は年金契約の識別コードになる可能性がある。

これは「Validation」要素であるため、例外的に口座番号制度がない場合、口座番号がないことを示すのに NANUM を使用する。

口座番号のこのフォーマットは、FATCA と同一である。構造化された口座番号だけではなく自由な様式の口座番号に使用でき、非標準の口座識別子又は保険契約番号もここに含むことができる。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
AccountNumber	AcctNumberType		cfc:AcctNumberType_EnumType	Optional

口座番号タイプに関する情報を一覧表として含めるオプションがある。許容される値は以下のとおり。

- OECD601= IBAN（国際銀行口座番号）（周知の構造に従う）
- OECD602= OBAN（その他の銀行口座番号）
- OECD603= ISIN（国際証券識別番号）（周知の構造に従う）
- OECD604= OSIN（その他の証券識別番号）
- OECD605= Other（その他のあらゆるタイプの口座番号。例：保険契約）

IBAN 又は ISIN が利用可能な場合、それを記載するとともに口座番号タイプに関する適切な情報を提供しなければならない。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
AccountNumber	UndocumentedAccount		xsd:boolean	(Optional) Mandatory

[この属性は、CRS の国内報告で使用し、不記録口座であることを示す。]

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
AccountNumber	ClosedAccount		xsd:boolean	(Optional) Mandatory

この属性は、CRS 報告で使用し、閉鎖口座であることを示す。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
AccountNumber	DormantAccount		xsd:boolean	Optional

この属性は、CRS 報告で使用し、休眠口座であることを示すことができる。

#### 4e. Account Holder (口座名義人)

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
AccountHolder			crs:AccountHolder_Type	Validation

CRS では、このデータ要素で、以下の事業体の口座名義人を識別できる。

- ・ 報告対象者である 1 人又は複数の実質的支配者がいる受動的 NFE
- ・ CRS の報告対象者

個人又は AcctHolderType を加えた事業体（ただしどちらを選択しても、口座名義人として入力しなければならない）を入力する選択肢があるため、以下では「Validation (choice)」と表示されている。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
Individual			crs:PersonParty_Type	Validation (choice)

報告対象の口座名義人が自然人の場合、その識別情報をここで報告する。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
Organisation			crs:OrganisationParty_Type	Validation (choice)

報告対象の口座名義人が自然人でない場合、その事業体の識別情報をここで報告する。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
AcctHolderType			crs:CrsAcctHolderType_EnumType	Validation (choice)

このデータ要素では、以下の事業体の口座名義人を識別する。

- ・ 報告対象者である 1 人又は複数の実質的支配者がいる受動的 NFE
- ・ CRS の報告対象者
- ・ CRS の報告対象者である受動的 NFE

報告対象口座が事業体に保有されている場合又は報告対象の支払が上記の事業体に行われる場合にのみ項目を入力する。CRS で許容される入力は、以下のとおり。

- ・ CRS101=報告対象者である 1 人又は複数の実質的支配者がいる受動的 NFE
- ・ CRS102=CRS の報告対象者
- ・ CRS103= CRS の報告対象者である受動的 NFE

#### 4f. Controlling Person (実質的支配者)

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
ControllingPerson			crs:ControllingPerson_Type	(Optional) Mandatory

報告対象者である受動的 NFE の実質的支配者の名前を入力する。事業体の口座名義人が、報告対象者である 1 人又は複数の実質的支配者がいる受動的 NFE の場合にのみ、Mandatory (必須) である。受動的 NFE に報告対象者である複数の実質的支配者がいる場合は、当該報告対象者全ての名前を報告しなければならない。

報告対象者である実質的支配者の居住地国であると特定された各報告対象国に関して、個別の報告が行われるものとする。しかしながら、各報告対象国の報告対象者の情報 (受動的 NFE の情報及びその他の関連するデータを含む) のみを報告するものである。

事業体の口座名義人が報告対象者であり、かつ報告対象者である 1 人又は複数の実質的支配者がいる受動的 NFE でもある場合で、当該事業体及びいずれかの当該実質的支配者が双方とも同一の報告対象国の居住者であるときは、当該口座に関する情報は、(i) 報告対象者である 1 人の実質的支配者がいる受動的 NFE である事業体の口座、又は (ii) そのような口座及び報告対象者である事業体の口座として (すなわち、あたかも 2 つの口座に関する情報であるかのように) 報告することができる。

当該実質的支配者のいずれもが、事業体と同一の報告対象国の居住者ではない場合であっても、当該口座に関する情報は、報告対象者である事業体の口座として報告しなければならない。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
Individual			crs:PersonParty_Type	Validation

実質的支配者を、名前、住所及び居住地国で定義する。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
CtrlgPersonType			crs:CrsCtrlgPersonType_EnumType	(Optional) Mandatory

このデータ要素では、入手可能な場合、以下のオプションによる「ControllingPersonType」の属性を用いて、以下の各実質的支配者（以下「CP」という）のタイプを識別できる。

- a) 法人の実質的支配者 - 所有者
- b) 法人の実質的支配者 - その他の手段
- c) 法人の実質的支配者 - 上級経営者
- d) 法的取決めの実質的支配者 - 信託 - 委託者
- e) 法的取決めの実質的支配者 - 信託 - 受託者
- f) 法的取決めの実質的支配者 - 信託 - 保護者
- g) 法的取決めの実質的支配者 - 信託 - 受益者
- h) 法的取決めの実質的支配者 - 信託 - その他の者
- i) 法的取決めの実質的支配者 - その他 - 委託者に相当する者
- j) 法的取決めの実質的支配者 - その他 - 受託者に相当する者
- k) 法的取決めの実質的支配者 - その他 - 保護者に相当する者
- l) 法的取決めの実質的支配者 - その他 - 受益者に相当する者
- m) 法的取決めの実質的支配者 - その他 - その他の者に相当する者

CRS で許容される入力は以下のとおり。

- CRS801= CP of legal person – ownership
- CRS802= CP of legal person – other means
- CRS803= CP of legal person – senior managing official
- CRS804= CP of legal arrangement – trust – settlor
- CRS805= CP of legal arrangement – trust – trustee
- CRS806= CP of legal arrangement – trust – protector
- CRS807= CP of legal arrangement – trust – beneficiary

- CRS808= CP of legal arrangement – trust – other
- CRS809= CP of legal arrangement – other – settlor-equivalent
- CRS810= CP of legal arrangement – other – trustee-equivalent
- CRS811= CP of legal arrangement – other – protector-equivalent
- CRS812= CP of legal arrangement – other – beneficiary-equivalent
- CRS813= CP of legal arrangement – other – other-equivalent

#### 4g. Account Balance (口座残高)

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
AccountBalance			cfc:MonAmnt_Type	Validation

報告対象口座の口座残高又は価値を記載する。

- 預金口座及び保管口座。口座残高又は価値は、CRS のガイダンスに従うものとする。
- キャッシュバリュー及び年金契約。キャッシュバリュー保険又は年金契約はその口座残高又は価値である。
- 投資持分又は債権持分の口座。口座残高は、口座名義人が当該金融機関に持つ投資持分又は債権持分の価値である。
- 口座が閉鎖された場合は、口座閉鎖の属性と組み合わせて、Zero を入力する。
- 数字（桁数）。口座残高は、該当する通貨の小数点以下 2 桁までの金額を入力する。例えば、1000 米ドルは、1000.00 と入力することになる。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
AccountBalance	currCode	3 文字	iso:currCode_Type	Validation

金額には全て、ISO 4217 Alpha3 規格に基づく 3 文字の通貨コード<sup>2</sup>を付加しなければならない。

#### 4h. Payment (支払)

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
Payment			crs:Payment_Type	Optional

報告対象期間中の報告対象口座への支払についての情報を入力する。

複数の支払タイプを報告する必要がある場合は、支払情報は繰返し要素になる。

例えば、支払タイプには以下のものを含めることができる。

##### 預金口座

- その暦年中に当該口座に支払われ又は入金された利子の総額

##### 保管口座

- その暦年（又は関係する報告対象期間）中に当該口座に支払われ又は入金された配当金の総額
- その暦年（又は関係する報告対象期間）中に当該口座に支払われ又は入金された利子の総額
- その暦年（又は関係する報告対象期間）中に、FFI が口座名義人のカスタディアン、ブローカー、ノミニー、その他の代理人として行動し、これに関連して当該口座に支払われ又は入金された資産の売却金又は償還金の総額
- その暦年（又は関係する報告対象期間）中に当該口座に支払われ又は入金されたその他の全ての収益の総額

2 以下の免責事項では、CRS スキーマにおける ISO の通貨コードリストに係る全ての使用について、言及されている。「実務上の理由により、リストは ISO 4217 Alpha 3 通貨リストに基づいており、これは現在銀行及びその他の金融機関が使用しており、したがって税務当局も使用している。当該リストを使用することによって、OECD は、掲載されている地域の法的地位に関連して何であれいかなる意見を表明することも示唆するものではない。当該リストの内容は、いかなる地域に関する地位又は主権、国際的な境界及び国境の画定並びにいかなる地域、都市又は区域の名称にも何らの影響を与えるものではない。」

## 投資又は債権口座

- その暦年（又は関係する報告対象期間）中に当該口座に支払われ又は入金された償還金支払を含む支払の総額

## キャッシュバリュー保険及び年金契約口座

- その暦年（又は関係する報告対象期間）中に当該口座に支払われ又は入金された償還金支払を含む支払の総額

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
Type			crs:CrsPaymentType_EnumType	Validation

支払タイプを識別する適切なコードを選択する。具体的な支払タイプの一覧は以下のとおり。

- CRS501 = Dividends（配当）
- CRS502 = Interest（利子）
- CRS503 = Gross Proceeds/Redemptions（売却代金／償還金総額）
- CRS504 = Other（その他） – CRS（例：口座に保有する資産に関して生じたその他の収益）

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
PaymentAmnt			cfc:MonAmnt_Type	Validation

支払金額は、該当する通貨の小数点以下2桁までの金額を入力する。例えば、1000米ドルは、1000.00と入力することになる。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
PaymentAmnt	currCode	3文字	iso:currCode_Type	Validation

支払金額には全て、ISO 4217 Alpha 3規格に基づく3文字の通貨コードを付加する。

## 4i. Pool Report（プール報告）

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
PoolReport			ftc:CorrectablePoolReport_Type	Optional (Non-CRS)

プール報告は、CRSには適用しない。



## Schema version

スキーマのバージョン及び対応するビジネスルールでは、メジャー及びマイナーバージョン（例：2.0）といった、通常、ピリオドで分けられる2つの数字から構成される固有のバージョン番号が割り当てられる。バージョン番号は、スキーマが非常に軽微な変更により改訂されたことを示す3つ目の番号（例：2.0.1）を含むこともある。

バージョンは、スキーマ要素のバージョン属性によって特定される。CRS スキーマ上、対象となる名前空間にはメジャーバージョンのみが含まれる。

```
<xsd:schema xmlns:crs="urn:oe.cd:ties:crs:v2" xmlns:xsd="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
xmlns:ftc="urn:oe.cd:ties:fatca:v1" xmlns:cfc="urn:oe.cd:ties:commontypesfatcacrs:v2"
xmlns:stf="urn:oe.cd:ties:crsstf:v5" xmlns:iso="urn:oe.cd:ties:isocrstypes:v1"
targetNamespace="urn:oe.cd:ties:crs:v2" elementFormDefault="qualified"
attributeFormDefault="unqualified" version="2.0">
  <xsd:import namespace="urn:oe.cd:ties:isocrstypes:v1" schemaLocation="isocrstypes_v1.1.xsd"/>
  <xsd:import namespace="urn:oe.cd:ties:crsstf:v5" schemaLocation="oecdcrstypes_v5.0.xsd"/>
  <xsd:import namespace="urn:oe.cd:ties:commontypesfatcacrs:v2"
    schemaLocation="CommonTypesFatcaCrs_v2.0.xsd"/>
  <xsd:import namespace="urn:oe.cd:ties:fatca:v1" schemaLocation="FatcaTypes_v1.2.xsd"/>
```

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
CRS_OECD	version	1~10 文字	stf:StringMin1Max10_Type	(Optional) Mandatory

XML 報告ファイルにおける CRS\_OECD バージョン属性のルート要素は、スキーマバージョンの値を設定する必要がある。これは、報告書を作成するために使用されたスキーマバージョンを特定するであろう。

CRS スキーマバージョン 2.0 の場合、バージョン属性は「2.0」の値を設定する必要がある。

## Transliteration (翻字)

送信国と受信国とが共通のアルファベットを使用していないために、翻字が必要になる場合、権限ある当局は、当該翻字の実施方法について合意することができる。当該合意がない場合、送信国は、要請があったときには、自国のアルファベット又は文字表記を、翻字の国際規格（例えば、ISO 8859 に規定されている）に合致させて、ラテン・アルファベットに翻字しなければならない。送信国は、自ら選択した場合は、各口座の記録の指定のデータ（例えば、住所又は名前）を、自国のアルファベット又は文字表記及び別個のラテン・アルファベットの両方で送信することができる。受信国も、ラテン・アルファベットと自国のアルファベット又は文字表記との間で翻字する用意を整えておかなければならない。

## 共通報告基準（CRS）の訂正プロセスに関するガイダンス

AEOI を実施する上で、送信国は、既に送信したデータのいくつかの要素の訂正が必要になることがある。以下のセクションでは、訂正データのファイルを送信することによって、受信したオリジナルデータと同じシステムで処理できるデータの自動訂正方法を説明する。以下のセクションにおいて、訂正という場合、データ要素の削除も含む。

### 技術的ガイダンス

訂正する要素を識別するために、最上位の要素である Reporting FI 又は Account Report には、DocSpec\_Type の要素が含まれており、訂正に必要な情報を記載する。

#### DocSpec Type

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
DocSpec			stf:DocSpec_Type	Validation

DocSpec では、送信している CRS メッセージ内の特定の記録を識別する。これにより、訂正が必要な記録の識別ができる。DocSpec\_Type は以下の要素で構成されている。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
DocTypeIndic			stf:OECDDocTypeIndic_EnumType	Validation

この要素では、提出しているデータのタイプを特定する。許容される入力は以下のとおり。

- OECD0 = Resent Data（再送信されたデータ）（報告金融機関要素を再送信する場合に限って使用される）
- OECD1 = New Data（新規データ）
- OECD2 = Corrected Data（訂正データ）
- OECD3 = Deletion of Data（データの削除）
- OECD10 = Resent Test Data（再送信されたテストデータ）（報告金融機関要素を再送信する場合に限って使用される）
- OECD11 = New Test Data（新規テストデータ）
- OECD12 = Corrected Test Data（訂正テストデータ）

- OECD13 = Deletion of Test Data (テストデータの削除)

メッセージには新規記録 (OECD1) 又は訂正/削除 (OECD2 及び OECD3) のいずれかを含めることができるが、両者を混在させることはできない。OECD10 から OECD13 までは、事前に合意されたテスト期間中又は両当事者がテストに合意した場合の二者間の協議の後にのみ使用できる。これにより、テストデータが「生」データと混在する可能性をなくすることができる。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
DocRefID		1~200 文字	stf:StringMin1Max200_Type	Validation

当該文書の一意の識別子 (すなわち、1 つの記録とその子データ要素の全て)

訂正 (又は削除) には、後で参照できるように新規の一意の DocRefID が必要である。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
CorrDocRefID		1~200 文字	stf:StringMin1Max200_Type	Optional

CorrDocRefID では、訂正/削除すべき要素の DocRefID を参照する。送信した当該口座報告の最新のレファレンス (DocRefID) を常に参照しなければならない。

このように、各訂正内容が前の版と完全に置き換わるように、一連の訂正又は修正が処理される。以下の CRS 訂正例では、これが実際にどう機能するかを示している。

要素	属性	サイズ	入力タイプ	要件
CorrMessageRefID		1~170 文字	stf:StringMin1Max170_Type	Optional (non CRS)

空間と時間において DocRefID は一意であるため、この要素は、DocSpec レベルの CRS には使用しない。

### MessageRefID 及び DocRefID の一意性

メッセージと記録を確実に特定し、訂正できるように、MessageRefID 及び DocRefID は、空間と時間において一意でなければならない。(すなわち、同じ参照識別子を持つ他のメッセージ又は記録が存在してはならない。)

MessageRefID の識別子には、特定のメッセージの識別を可能にするために送信者が使用するどのような情報でも含むことができる。しかし、権限ある当局から権限ある当局への送信では、最初の要素として送信国のコードから始め、それから

データが関連する年、次に受信国のコード、最後に一意の識別子としなければならない。

例えば、FR2013CA123456789

DocRefID の一意の識別子は、金融機関が国内報告を行う際に使用するレファレンス又は送信側の税務当局が作成した別の一意のレファレンスとしてもよい。しかし、いかなる場合でも、送信国の国コードから始めなければならない。

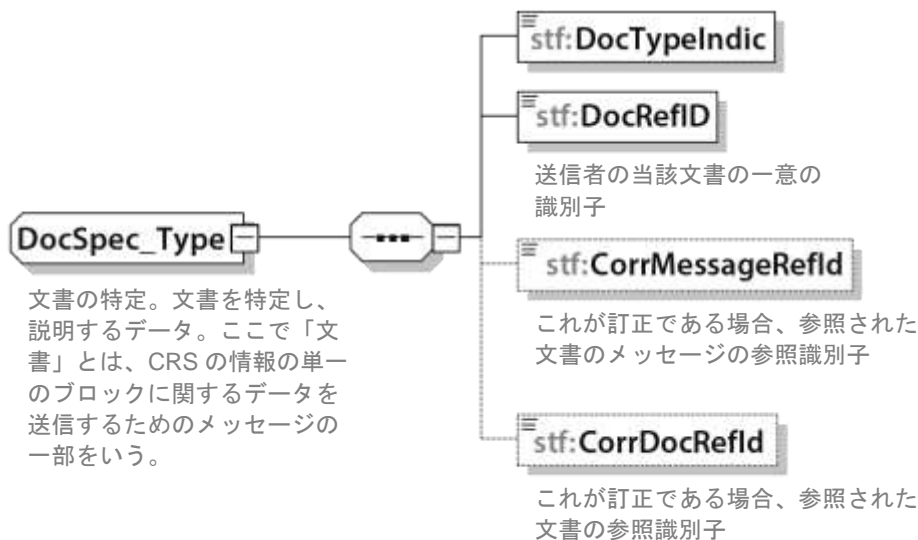
例えば、FRFI286abc123xyz 又は FRabc123xyz

[CRS スキーマを国内報告に使用する場合、金融機関は、MessageRefID 及び DocRefID の双方に同様に金融機関の識別番号を含むことができる。これは、時間と空間における一意性を確保し、検索要求をソースデータとリンクさせるための優れた取組みとして推奨されている。]

### MessageSpec 及び Corrections (訂正)

訂正メッセージには、後で再び訂正することもできるように、独自の一意の MessageRefID を付けなければならない。メッセージ全体に関して言えば、DocSpecIndic に相当するものはない。

メッセージ全体を取り消すために、MessageSpec.CorrMessageRefId を使用しない。代わりに、こうした場合には訂正メッセージを送信して、誤ったメッセージに関連する全ての記録を削除すべきである。



## 訂正可能な要素

CRS XML スキーマには、訂正可能な要素が2つある。それは、報告金融機関及び口座報告である。CRS XML スキーマ上では、これら2つの要素のみを訂正できる。これら2つの訂正可能な要素は、訂正プロセス上、個別に検討しなければならない。2つの訂正可能な要素のうち一方を訂正することにより、関連するもう一方の訂正可能な要素に影響が及んではならない。

ある訂正が従前に送信された訂正可能な要素の子要素を目的とする場合、当該訂正可能な要素の全体（当該訂正可能な要素及びその全ての子要素）を再送信しなければならない。このことは、報告金融機関及び口座報告の両要素に当てはまる。

これら訂正可能な要素の定義には、訂正すべき要素を識別できるようにするために、DocTypeIndic、DocRefID 及び CorrDocRefID という名称の要素を含む DocSpec\_Type というタイプの要素が含まれている。

訂正メッセージについては、口座報告の要素は必須でないことを踏まえると、訂正可能な要素に関して以下の DocTypeIndic の組み合わせが許容される。

		口座報告なし	口座報告			
			OECD1	OECD2	OECD3	OECD0
報告金融機関	OECD1					
	OECD2	OK		OK	OK	
	OECD3	OK			OK	
	OECD0			OK	OK	

### 訂正メッセージ内における訂正可能な要素に関する DocTypeIndic の組み合わせ

ある訂正が口座報告要素のみを目的とし、かつ、関連の報告金融機関要素は何ら修正されない場合には、報告金融機関要素に DocTypeIndic 「OECD0-データの再送信」が使用される。このタイプは、報告金融機関要素だけに許容される。

受信側の権限ある当局が上掲以外の組み合わせを受信した場合には、当該受信側の権限ある当局は受信したファイルを拒絶し、かつ、該当するエラー・コードを付したステータス・メッセージを返信する（CRS ステータス・メッセージ・ユーザー・ガイド参照）。

## 訂正メッセージの構造

訂正メッセージは、本質的に、（新規データが含まれる）最初のメッセージと同一の構造を有するが、これは同一のスキーマに従うからである。メッセージヘッ

ダーには軽微な差異が存在する。すなわち、MessageTypeIDic には CRS702 を設定する (CRS702 = 本メッセージには以前に送信された情報の訂正が含まれる)。

最初のメッセージと、全ての訂正メッセージには、固有かつ一意の MessageRefID を付さなければならないが、報告金融機関要素については、修正のない場合には DocTypeIDic の値として OECD0 を使用することができる。

訂正された要素は、DocTypeIDic の値として OECD2 又は OECD3 (最初のメッセージについては OECD1) を使用する。CorrDocRefID は、訂正すべき要素 (この要素は最初のメッセージでは編集されない) の DocRefID を参照する。DocRefID は空間と時間において一意であるため、訂正後の記録には、訂正前の記録とは異なる DocRefID が付されなければならない。

訂正メッセージには、訂正 (OECD2) 若しくは削除 (OECD3) のいずれか一方又は両方、及び再送信される報告金融機関要素 (OECD0) を含めることができるが、新規データ (OECD1) を含めてはならない。

### **メッセージ間の関連性**

以下のセクションでは、上述の訂正メカニズムを通じて交換されるメッセージが相互にどのように関連付けられるのかを説明する。メッセージでは関連の報告対象期間が特定されるため、ある訂正メッセージによって、同一の報告対象期間を対象とする過去の最初のメッセージ又は訂正メッセージの記録が訂正される場合がある。

### **最初のメッセージの訂正**

最初のメッセージを訂正するという場合が最も多い。訂正は、(技術上又は実務上の見地から) 不正確であった要素を訂正するか、又は最初のメッセージから要素を削除するために使用される。

訂正可能な要素ごとに新規の DocRefID を作成し、既述のフォーマットに従うものとする。

CorrDocRefID は、最初のメッセージに訂正/削除をなすべき要素の DocRefID を参照しなければならない。

### **訂正メッセージの訂正**

訂正の訂正は許容される。その場合、メッセージを 2 回目に訂正する際の CorrDocRefID は、1 回目の訂正の DocRefID を参照しなければならない。

これは、受信側の権限ある当局が訂正を取り扱う順序を一つに確定するために必要である。そうしないと、2つの訂正で同一のメッセージが参照され、かつ、技術的な理由（例えば、インフラストラクチャー上又はアーキテクチャー上の制約）によって順序が逆となって到着した場合に、受信側の権限ある当局は、まず2番目の訂正を、続いて1番目の訂正を反映させることで、実際には2番目（かつ最新）の訂正を退けるおそれがある。

受信側の権限ある当局は、順序が逆になっている可能性があると思われるメッセージを受信した場合には、ベスト・プラクティスとして、先のメッセージが後から到着する場合に備えて、メッセージを一定期間留保した後に破棄するべきである。関連するメッセージが到着しない場合、受信側の権限ある当局は、送信元の権限ある当局に問い合わせるべきである。

### **共通報告基準に基づく訂正の例**

以下のセクションでは、具体的な訂正シナリオの例を示し、各シナリオに適用される訂正ルールを明示する。

各例には、状況を説明するために1あるいは複数の図表を含めている。これらの図表では、データの大部分は省略され、主な関連領域のみが明示されている。

下掲の例では、訂正又は再送信を要する要素を強調表示するために、以下の約束事が用いられている。

- ダーク・グレーは、何ら修正を要さない場合であっても、報告金融機関要素を再送信する必要があるときに使用される。その場合、本要素は直前の報告金融機関要素と同一の DocRefID をもって識別され、かつ OECD0 のコードが使用される。
- 黒は、(最初のメッセージにつき) 訂正を要する要素、又は (訂正メッセージにつき) 訂正される要素を識別するために使用される。

#### **例 1 : 同一口座に関する連続する2つの訂正**

本例では、以下のシナリオを取り扱う。

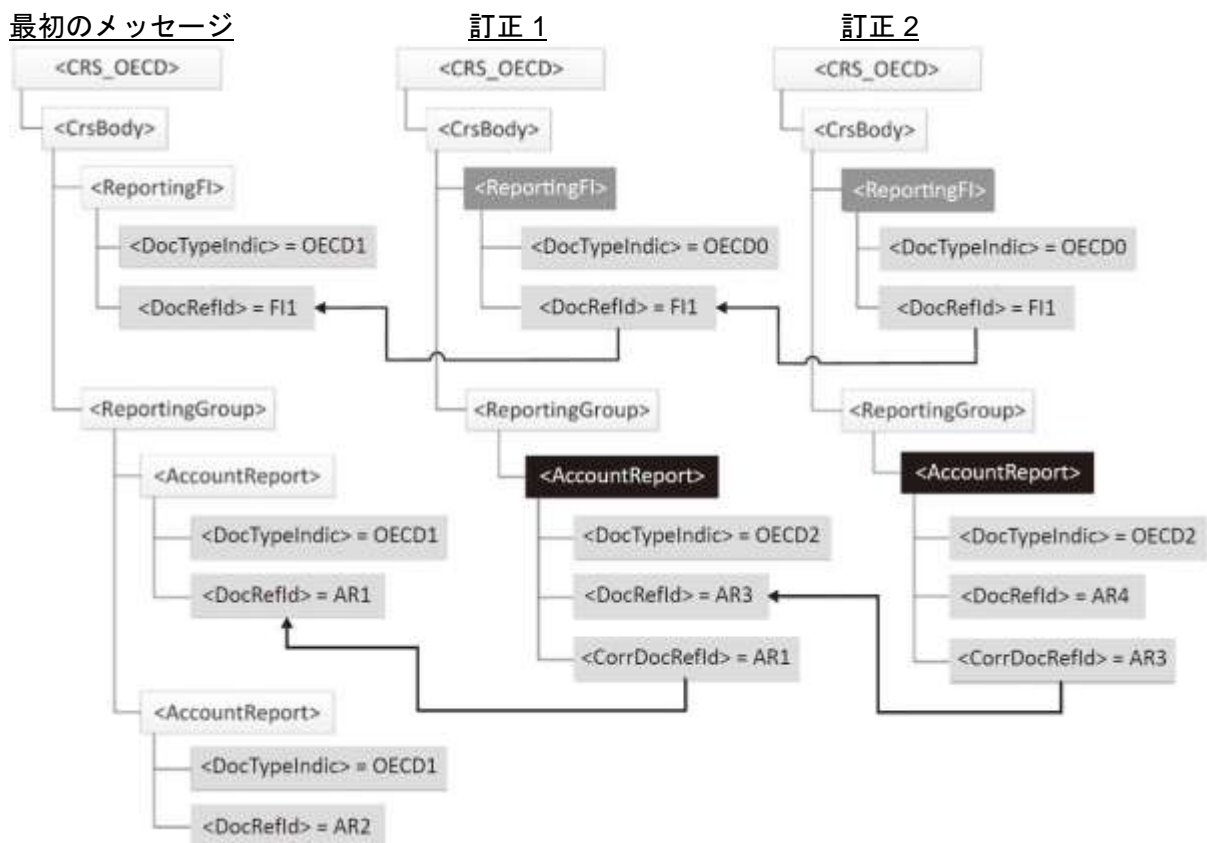
- 送信元の権限ある当局が、1個の報告金融機関及び2個の口座報告を含む最初のメッセージを送信する。
- その後、当該当局は、1番目の口座報告に関して、支払金額を訂正する最初の訂正メッセージを送信する。

- 最後に、当該当局は、再度 1 番目の口座報告に関して、口座残高を訂正する 2 番目の訂正メッセージを送信する。

ここでは 4 つの関連領域が存在しており、それらを以下の図で示す。

- 口座報告の **CorrDocRefID** は、前のメッセージ（特に、システム上最初のメッセージ）を参照せず、直前のメッセージを参照する。
- 口座報告の **DocTypeIndic** は、最初のメッセージ内では **OECD1** に、訂正メッセージ内では **OECD2** に設定される。
- 送信元の権限ある当局は、修正を要さない場合であっても、訂正対象の口座報告に関連する報告金融機関を毎回、再送信しなければならない。**DocTypeIndic** を **OECD0** に設定し、**DocRefId** については直前のメッセージと同一とする。
- 送信元の権限ある当局は、訂正された口座報告のみを再送信しなければならない。訂正を要さない 2 番目の口座報告は、訂正メッセージには含めない。

図例に記載された **DocRefID** は、図表を理解し易くするために簡略化されていることに留意されたい。





### 同一口座に関する連続する 2 つの訂正

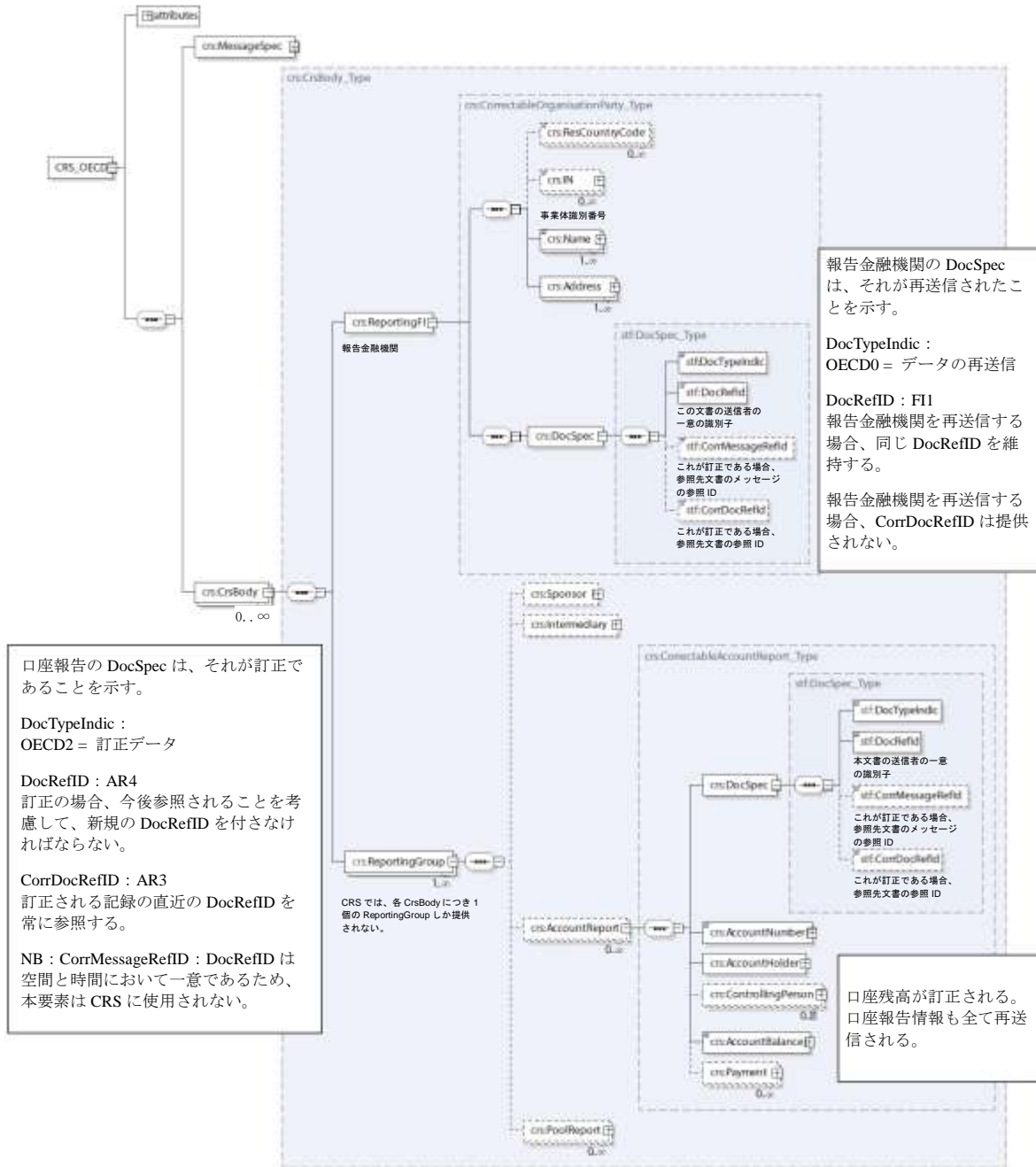
DocRefID は、先に定義された DocRefID フォーマットに従うものとする。

- 送信元の税務当局の国コードで始まるものとする。
- 空間と時間において一意でなければならない。

例えば、FR2013-11111 又は FRabc123xyz

上記の例は、権限ある当局間の交換を示したものであるが、CRS スキーマを国内で使用する場合にも同じ訂正プロセスが適用されることに留意されたい。

下掲の概略図は、(上掲の例 1 について) CRS スキーマの概略図における「訂正 2」メッセージを説明したものである。



CRS スキーマにおける「訂正 2」メッセージの説明

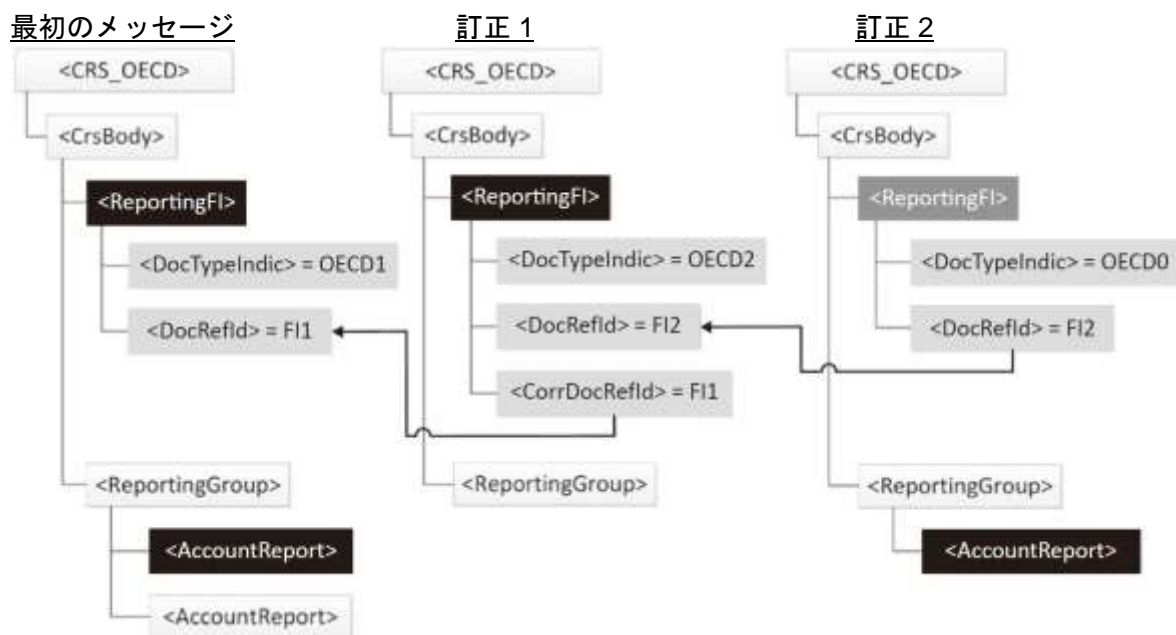
## 例 2 : 同一メッセージのデータに関する連続する 2 つの訂正

本例では、以下のシナリオを取り扱う。

- 送信元の権限ある当局が、1 個の報告金融機関及び 2 個の口座報告を含む最初のメッセージを送信する。
- その後、当該当局は、報告金融機関の住所を訂正する 1 番目の訂正メッセージを送信する。
- 最後に、当該当局は、1 番目の口座報告を訂正（新たな口座の支払）する 2 番目の訂正メッセージを送信する。

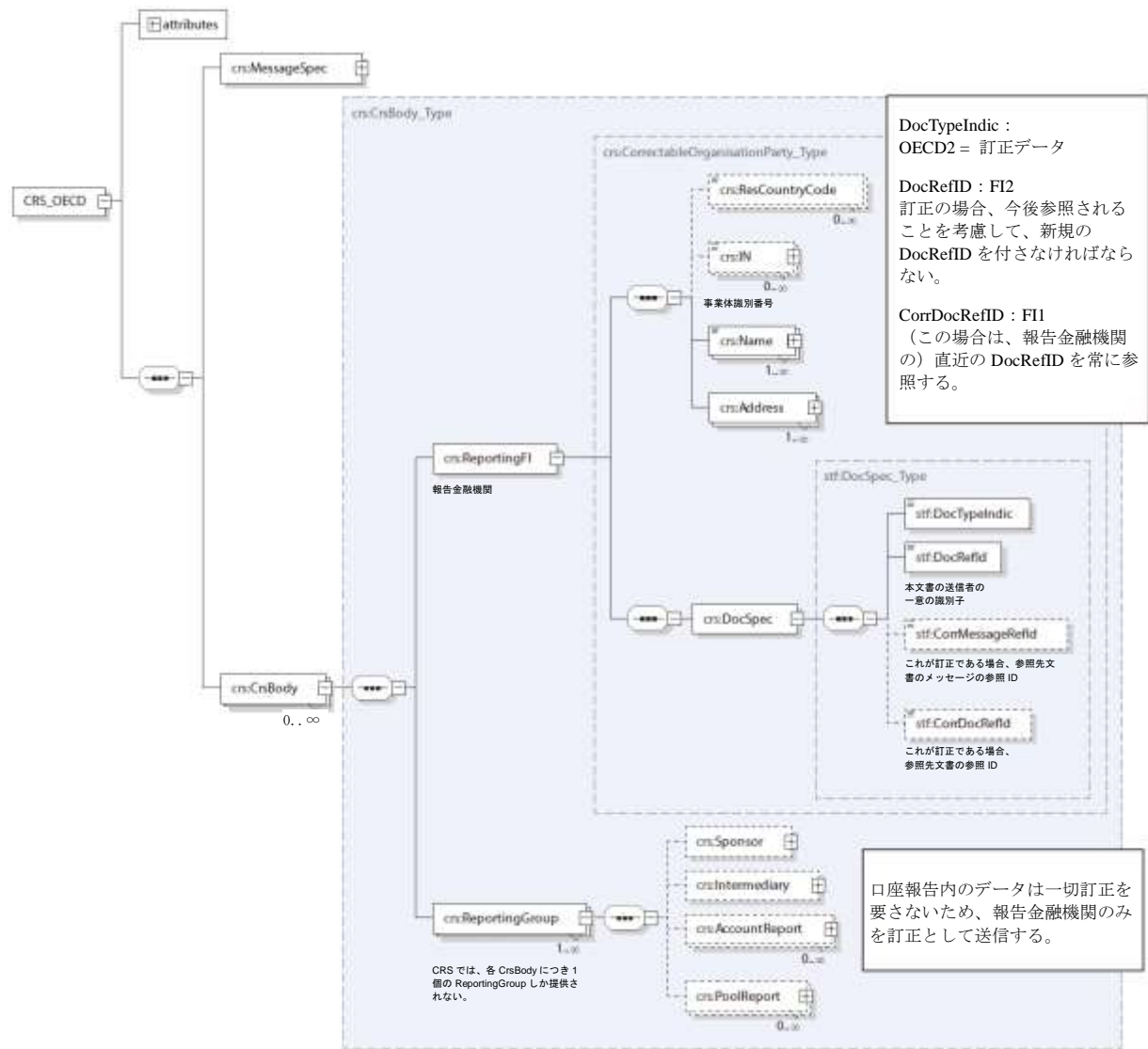
3 つの関連領域を以下の図に示す。

- 送信元の権限ある当局は、修正を要さない場合であっても、訂正対象の口座報告に関連する報告金融機関を毎回、再送信しなければならない。**DocTypeIndic** を OECD0 に設定し、**DocRefID** については直前のメッセージと同一とする。
- 送信元の権限ある当局は、訂正された口座報告のみを再送信しなければならない。訂正を要さない他の口座報告は、訂正メッセージには含めない。
- 送信元の権限ある当局は、口座報告の修正を要さない場合にはこれを含めずに、訂正された報告金融機関を送信することができる。



同一メッセージのデータに関する連続する 2 つの訂正

下掲の概略図は、（上掲の例 2 について）CRS スキーマの概略図の中の「訂正 1」メッセージを説明したものである。



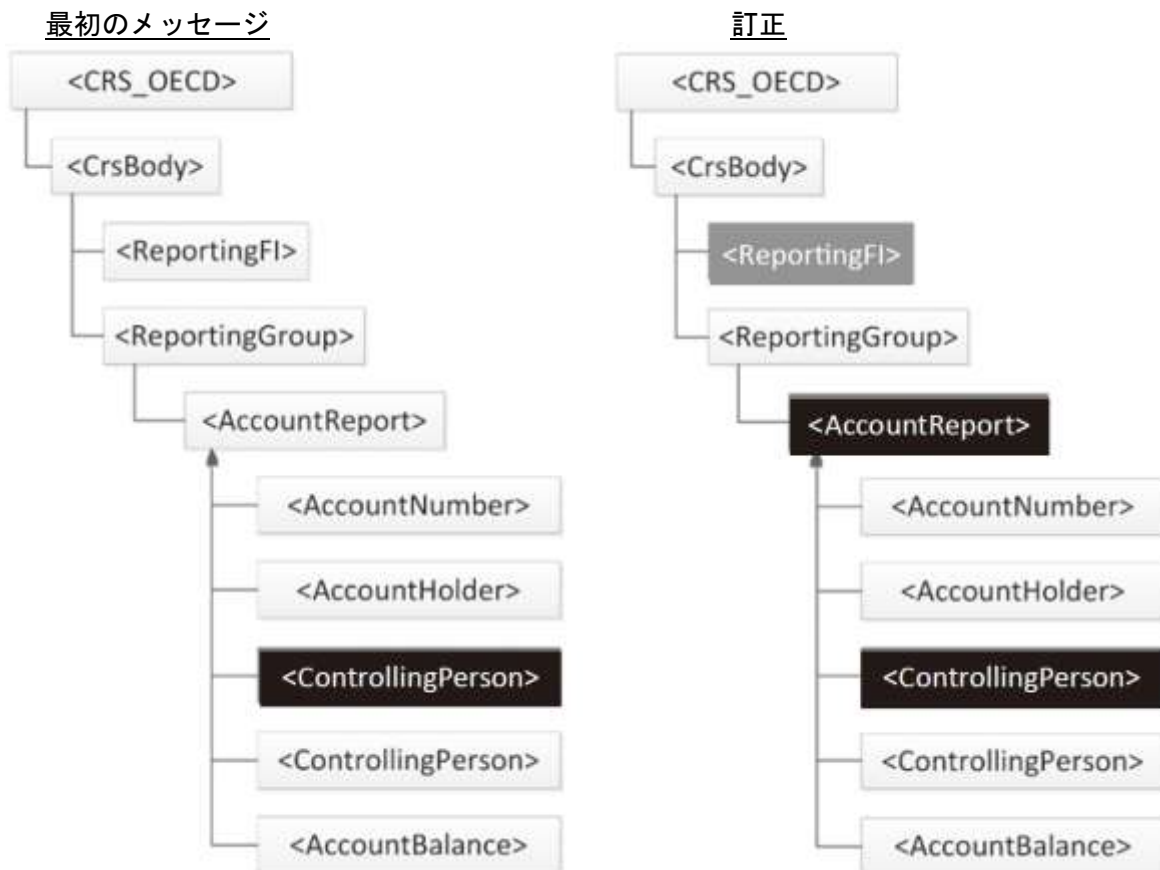
CRS スキーマ内の「訂正 1」メッセージの説明

## 例 3 : 口座報告の子要素の訂正

本例では、以下のシナリオを取り扱う。

- 送信元の権限ある当局が、1 個の報告金融機関並びに 1 個の口座番号、1 個の口座名義人、(同一の国に居住する) 2 個の実質的支配者及び 1 個の口座残高要素からなる 1 個の口座報告を含む最初のメッセージを送信する。
- その後、当該当局は、1 番目の実質的支配者の住所の訂正を希望する。

この場合、送信元の権限ある当局は、最初のメッセージの口座報告を訂正し、かつ、それを訂正された実質的支配者データとともに返信しなければならない。訂正メッセージには、報告金融機関（この要素は必須である）に加えて、2 番目の実質的支配者、口座番号、口座名義人及び口座残高の要素も含めなければならない。これらの要素は、修正を要さない場合であったとしても含める必要がある。これを以下の図表で示す。



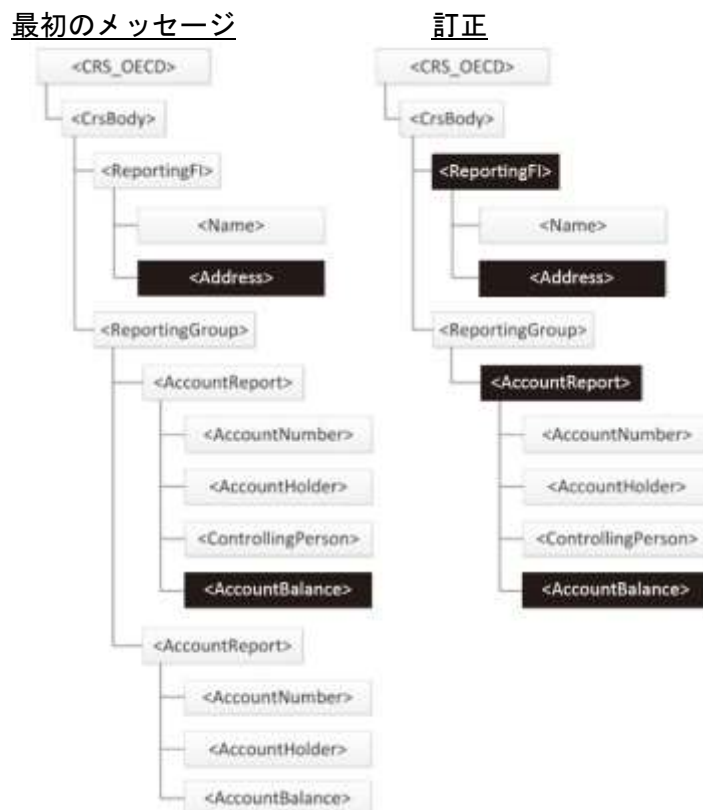
口座報告の子要素の訂正

## 例 4 : 同一メッセージ内の 2 個の訂正可能要素の訂正

本例では、以下のシナリオを取り扱う。

- 送信元の権限ある当局が、2 個の口座報告及び関連する報告金融機関を含む最初のメッセージを送信する。1 番目の口座報告は、1 個の口座番号、1 個の口座名義人、1 個の実質的支配者及び 1 個の口座残高要素からなる。2 番目の口座報告は、1 個の口座番号、1 個の口座名義人及び 1 個の口座残高要素からなる。報告金融機関は、1 個の名前及び 1 個の住所要素からなる。
- その後、当該当局は、報告金融機関の住所及び 1 番目の口座報告の口座残高の訂正を希望する。

この場合、送信元の権限ある当局は、最初のメッセージの報告金融機関及び 1 番目の口座報告を訂正しなければならない。報告金融機関には修正後の住所と名前を含めなければならない。1 番目の口座報告には、訂正後の口座残高のほか、口座番号、口座名義人及び実質的支配者の要素を含めなければならない。2 番目の口座報告は再提出しない。これを以下の図表で示す。



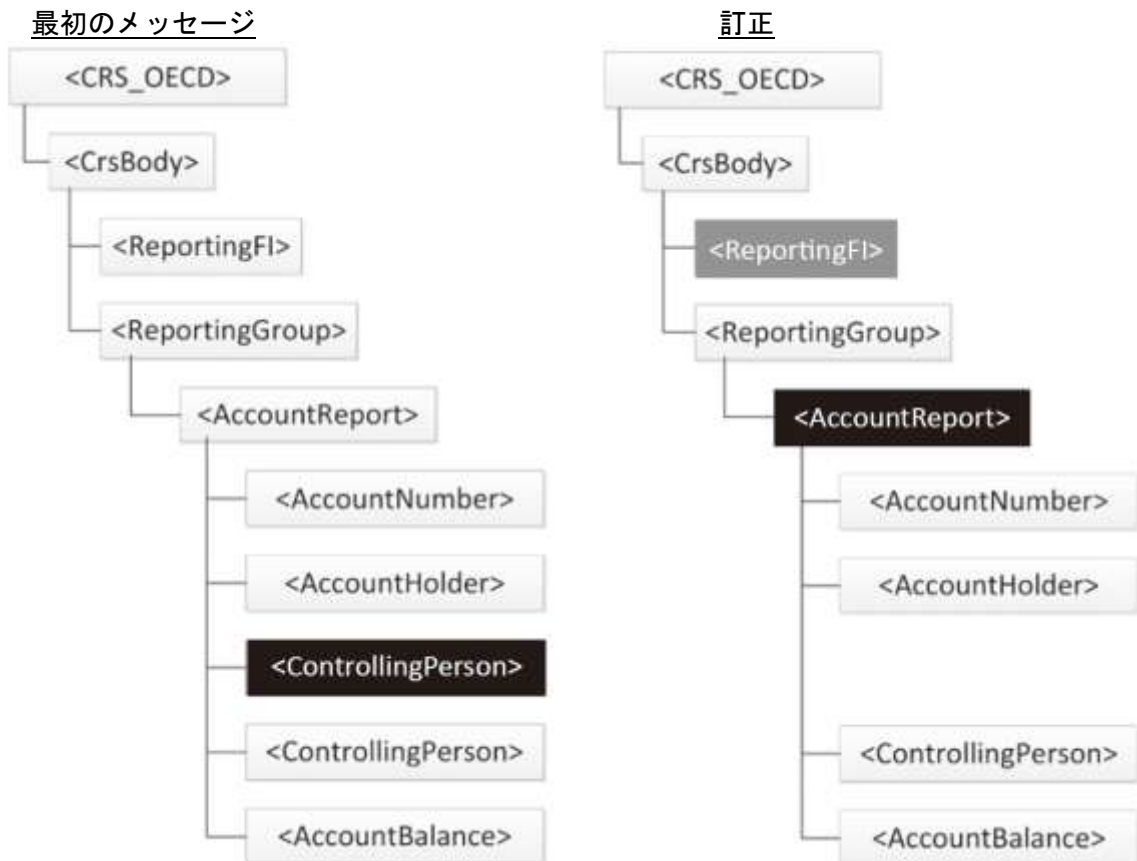
同一メッセージ内の 2 個の訂正可能要素の訂正

## 例 5 : 口座報告の子要素の削除

本例では、以下のシナリオを取り扱う。

- 送信元の権限ある当局が、1 個の報告金融機関並びに 1 個の口座番号、1 個の口座名義人、2 個の実質的支配者及び 1 個の口座残高の要素からなる 1 個の口座報告を含む最初のメッセージを送信する。
- その後、当該当局は、1 番目の実質的支配者の削除を希望する。

この場合、送信元の権限ある当局は、最初のメッセージの口座報告を訂正し、かつ、訂正されたメッセージには削除された実質的支配者要素を含めず、報告金融機関要素（この要素は必須である）並びに他方の実質的支配者及び口座番号、口座名義人、口座残高の要素を含めて返信しなければならない。これを以下の図表で示す。



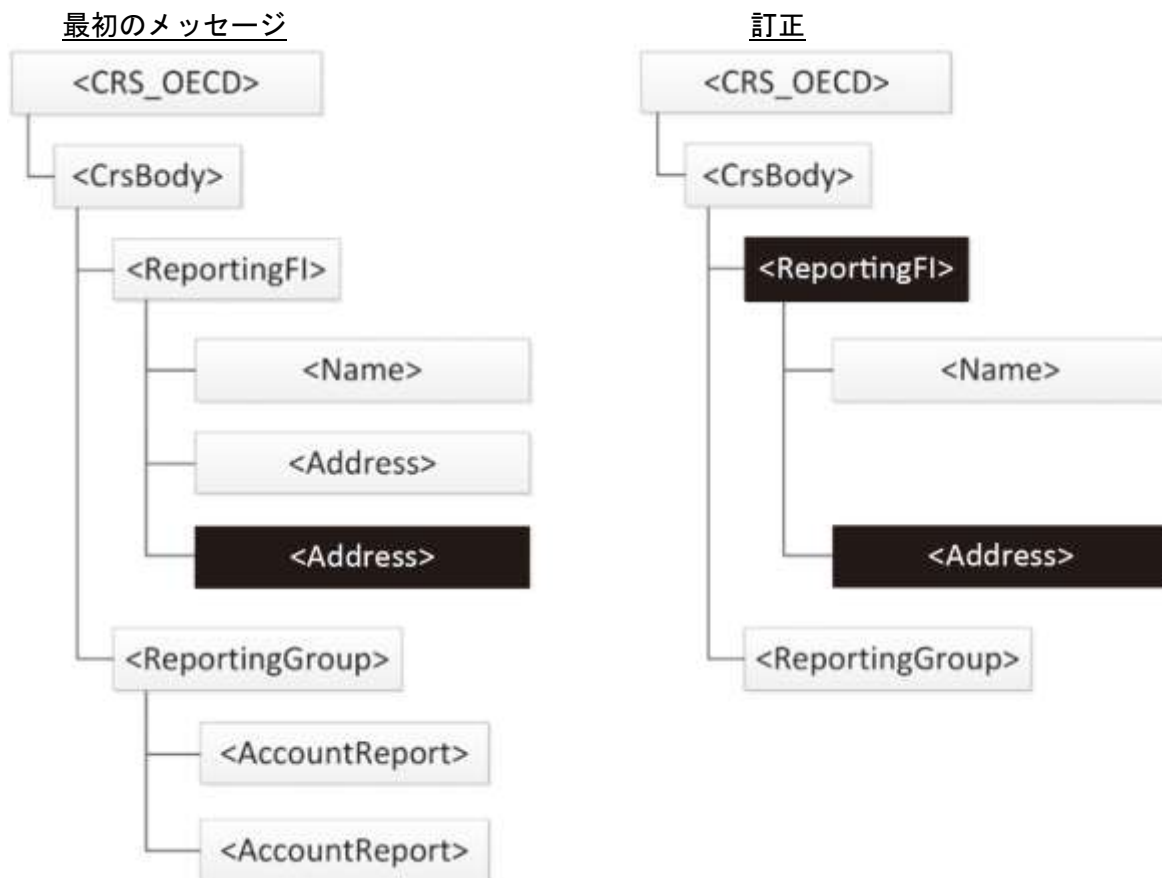
口座報告の子要素の削除

## 例 6 : 報告金融機関の子要素の削除

本例では、以下のシナリオを取り扱う。

- 送信元の権限ある当局が、2 個の口座報告並びに 1 個の名前及び 2 個の住所を有する関連報告金融機関を含めた最初のメッセージを送信する。
- その後、当該当局は、報告金融機関の 2 番目の住所の削除を希望する。

この場合、送信元の権限ある当局は、最初のメッセージの報告金融機関を訂正し、かつ、訂正されたメッセージには削除された住所を含めず、もう一方の住所及び名前を含めて返信しなければならない。口座報告は再提出しない。これを以下の図表で示す。



報告金融機関の子要素の削除

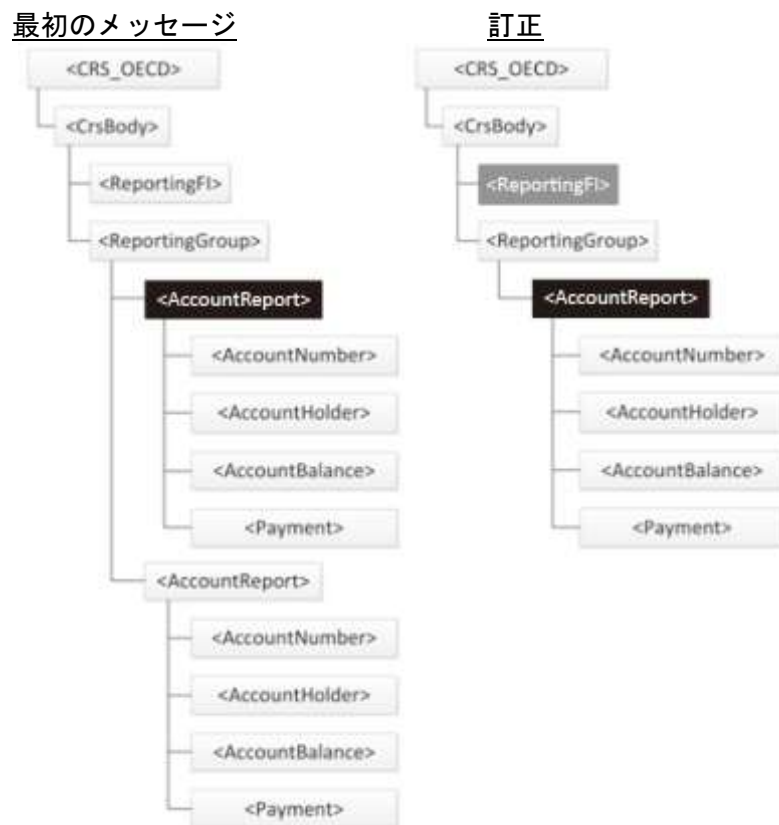


## 例 7 : 口座報告の削除

本例では、以下のシナリオを取り扱う。

- 送信元の権限ある当局が、2 個の口座報告及び関連報告金融機関を含む最初のメッセージを送信する。各口座報告は、1 個の口座番号、1 個の口座名義人及び1 個の口座残高の要素で構成されている。
- その後、当該当局は、1 番目の口座報告の削除を希望する。

この場合、送信元の権限ある当局は、1 番目の口座報告については削除しなければならない旨を示してこれを訂正し（DocTypeIndic を OECD3 に設定する）、2 番目の口座報告については訂正を要さないため省略した上で、訂正された口座報告の子要素及び報告金融機関（この要素は必須である）を含めて、メッセージを返信しなければならない。これを以下の図表で示す。



## 口座報告の削除

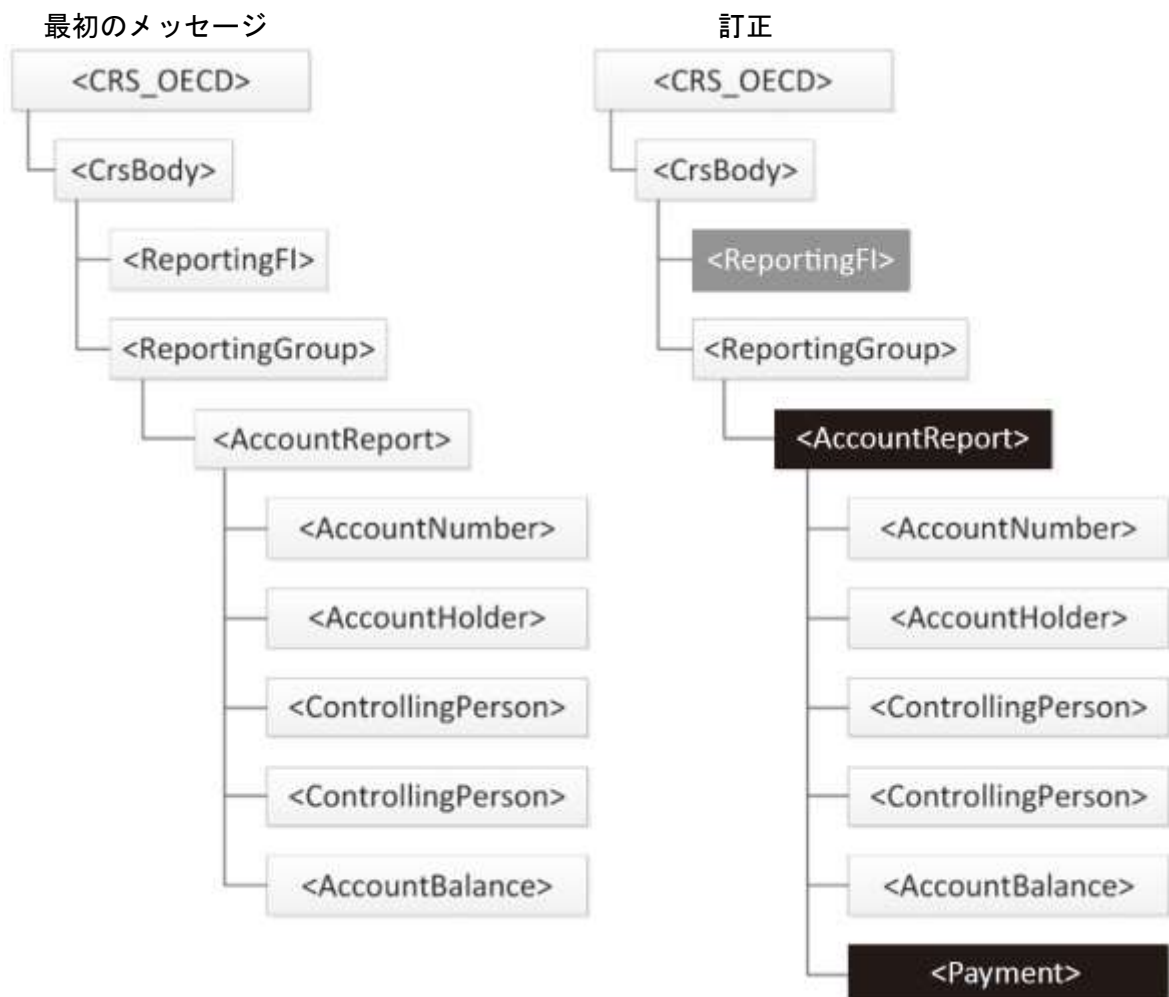
訂正メッセージで、関連の口座報告を削除せずに報告金融機関のみを削除した場合、例外が発生する可能性がある。報告金融機関と口座報告は常に関連付けられていなければならないため、この場合は、報告金融機関の削除は拒絶される。報告金融機関要素の削除は、（同一のメッセージ又は以前のメッセージのいずれかにおいて）全ての関連口座報告が既に削除されている場合に限り許容される。

## 例 8 : 子要素の作成

本例では、以下のシナリオを取り扱う。

- 送信元の権限ある当局が、1 個の口座報告及び関連報告金融機関を含む最初のメッセージを送信する。当該口座報告は、1 個の口座番号、1 個の口座名義人、2 個の実質的支配者及び 1 個の口座残高の要素からなる。
- その後、当該当局は、口座報告に支払要素の追加を希望する。

この場合には、送信元の権限ある当局は、最初のメッセージの口座報告を訂正して新規の支払要素を指定し、かつ、訂正されたメッセージに口座番号、口座名義人、2 個の実質的支配者及び口座残高の要素並びに報告金融機関要素（この要素は必須である）を含めて返信しなければならない。これを以下の図表で示す。



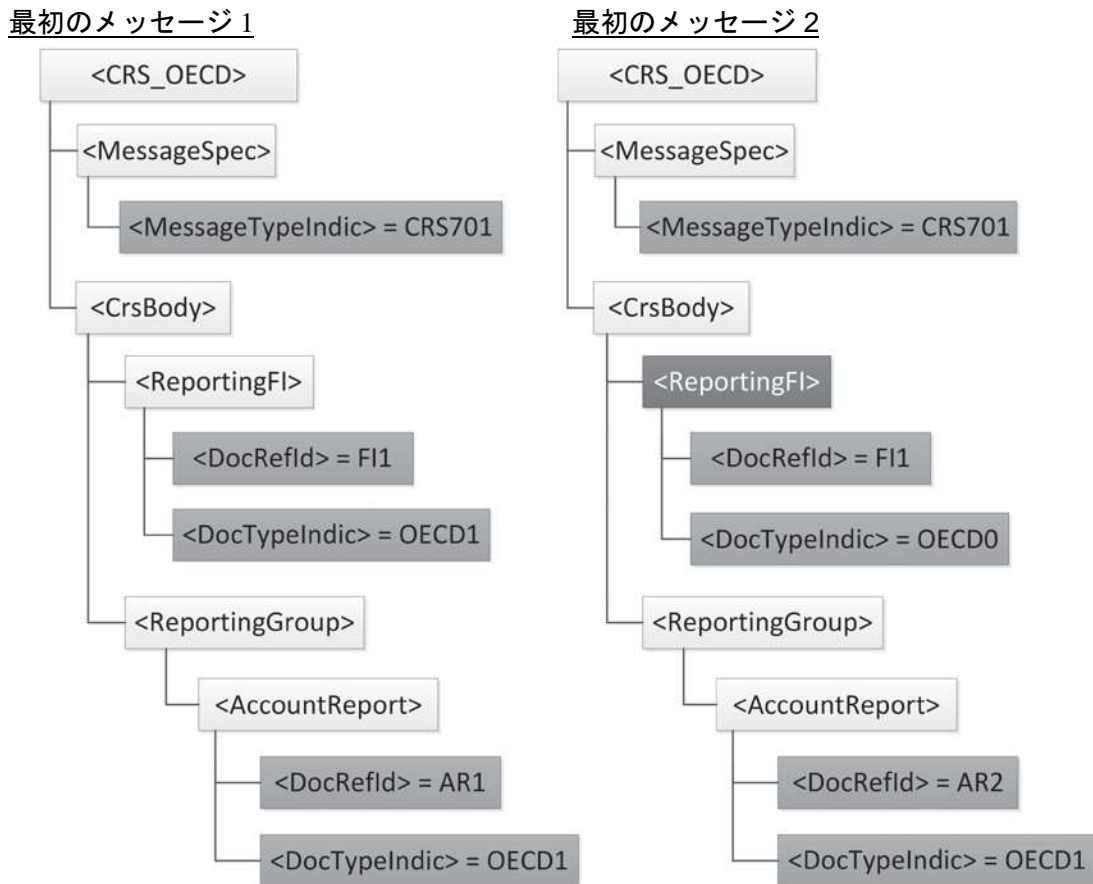
子要素の作成

## 例 9 : 既存の報告金融機関への口座報告の追加

本例では、以下のシナリオを取り扱う。

- 送信元の権限ある当局が、1 個の口座報告及び関連する報告金融機関を含む最初のメッセージを送信する。
- その後、当該当局は、口座報告をもう 1 個送信することを希望する。

この場合、送信元の権限ある当局は、新規の口座報告と送信済みの報告金融機関のみを含む最初のメッセージを新たに 1 個作成する。これを以下の図表で示す。



## 既存の報告金融機関への口座報告の追加

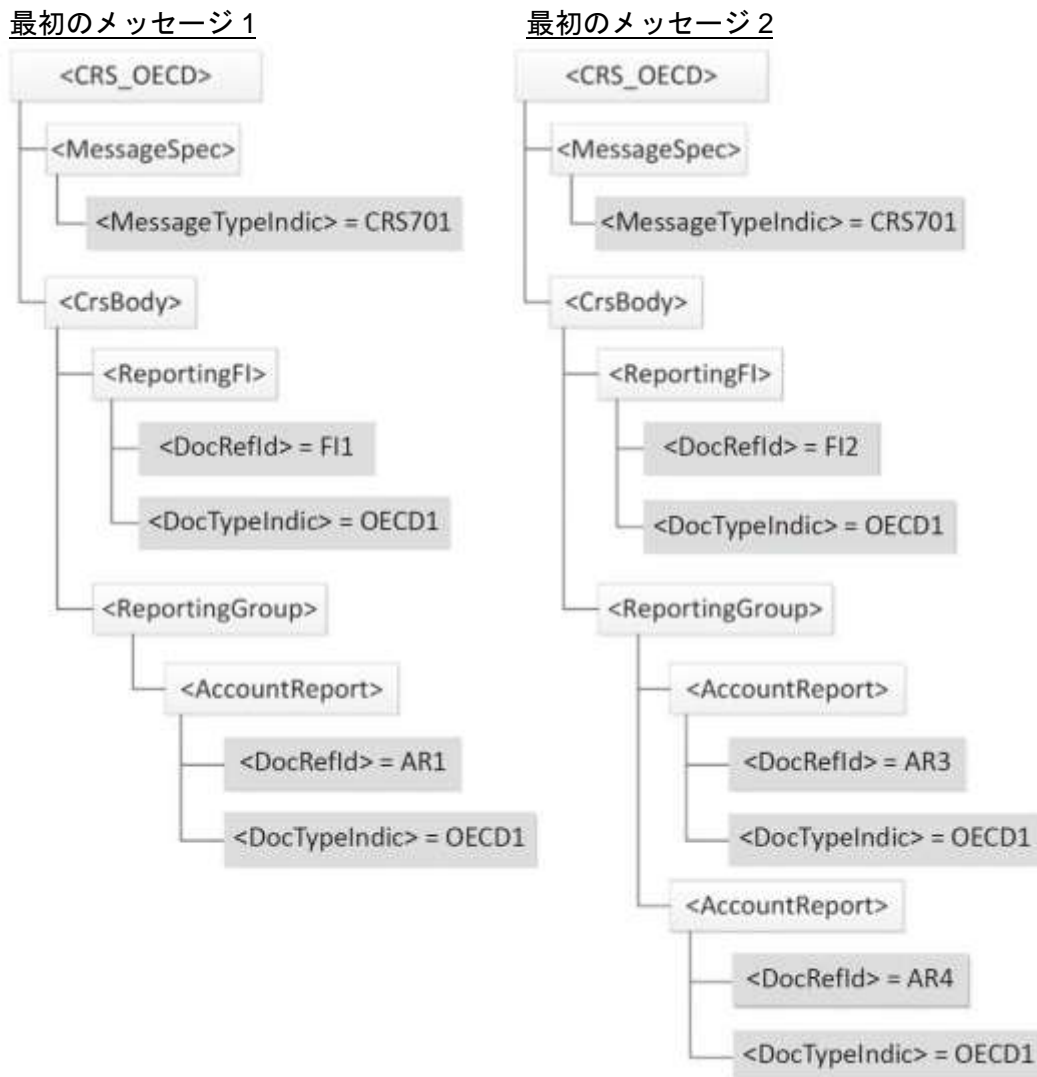
本シナリオは、遅延報告又はメッセージを分割する場合など、特定の状況でしか発生しない。

## 例 10：新規の報告金融機関をその口座報告とともに追加する

本例では、以下のシナリオを取り扱う。

- 送信元の権限ある当局が、1 個の口座報告及び関連の報告金融機関を含む最初のメッセージを送信する。
- その後、当該当局は、別の報告金融機関と 2 個の口座報告の送信を希望する。

この場合、送信元の権限ある当局は、新規の報告金融機関及び 2 個の口座報告のみを含む最初のメッセージを新たに 1 個作成する。これを以下の図表で示す。

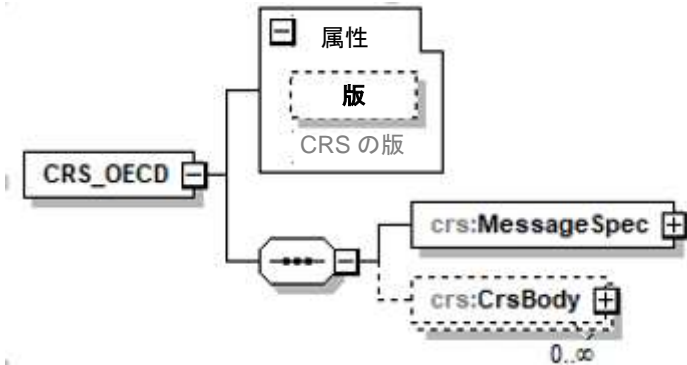


## 新規の報告金融機関をその口座報告とともに追加

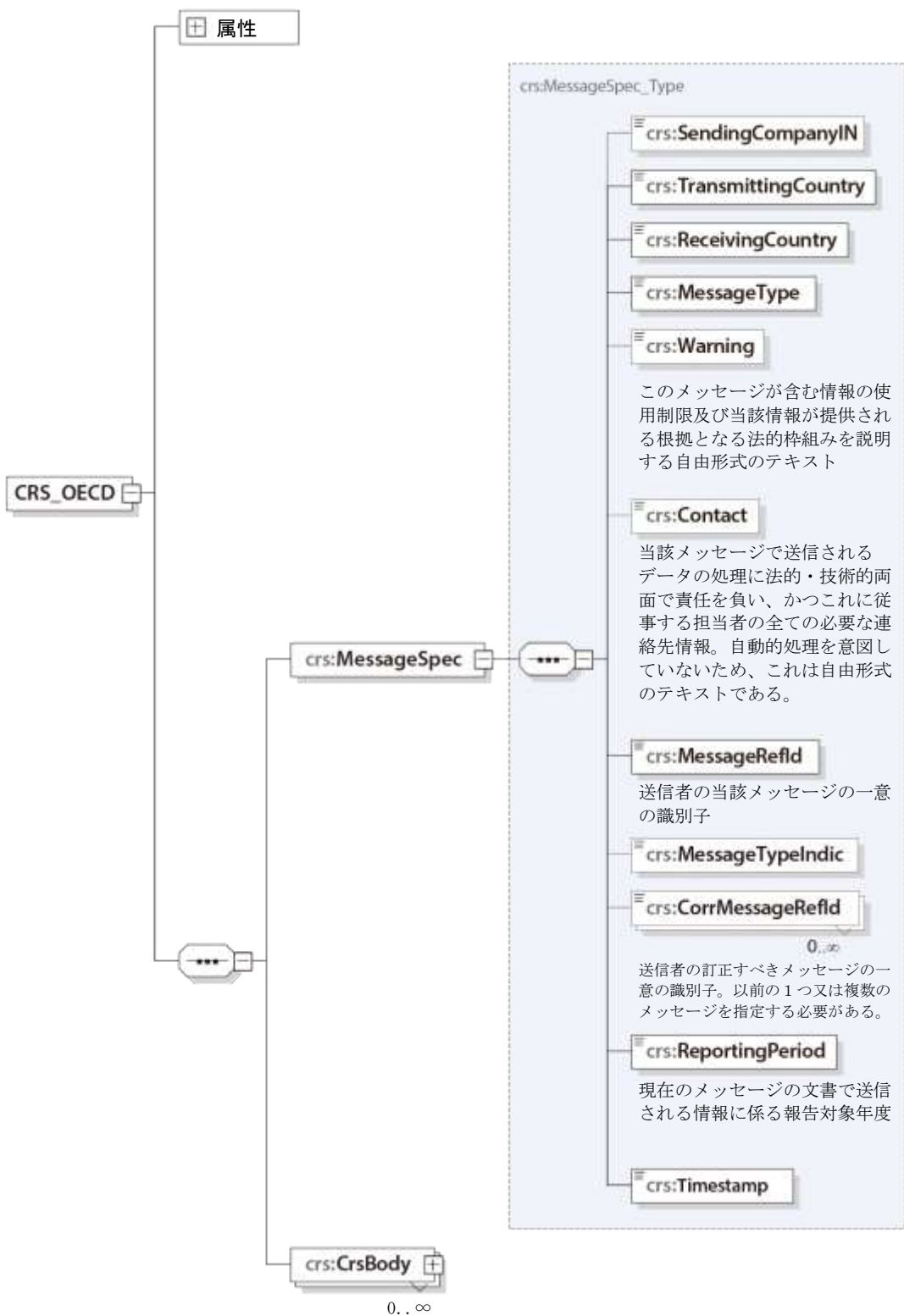
前の例のように、遅延報告又はメッセージを分割する場合など、特定の状況でしか発生しない。

付属書 A

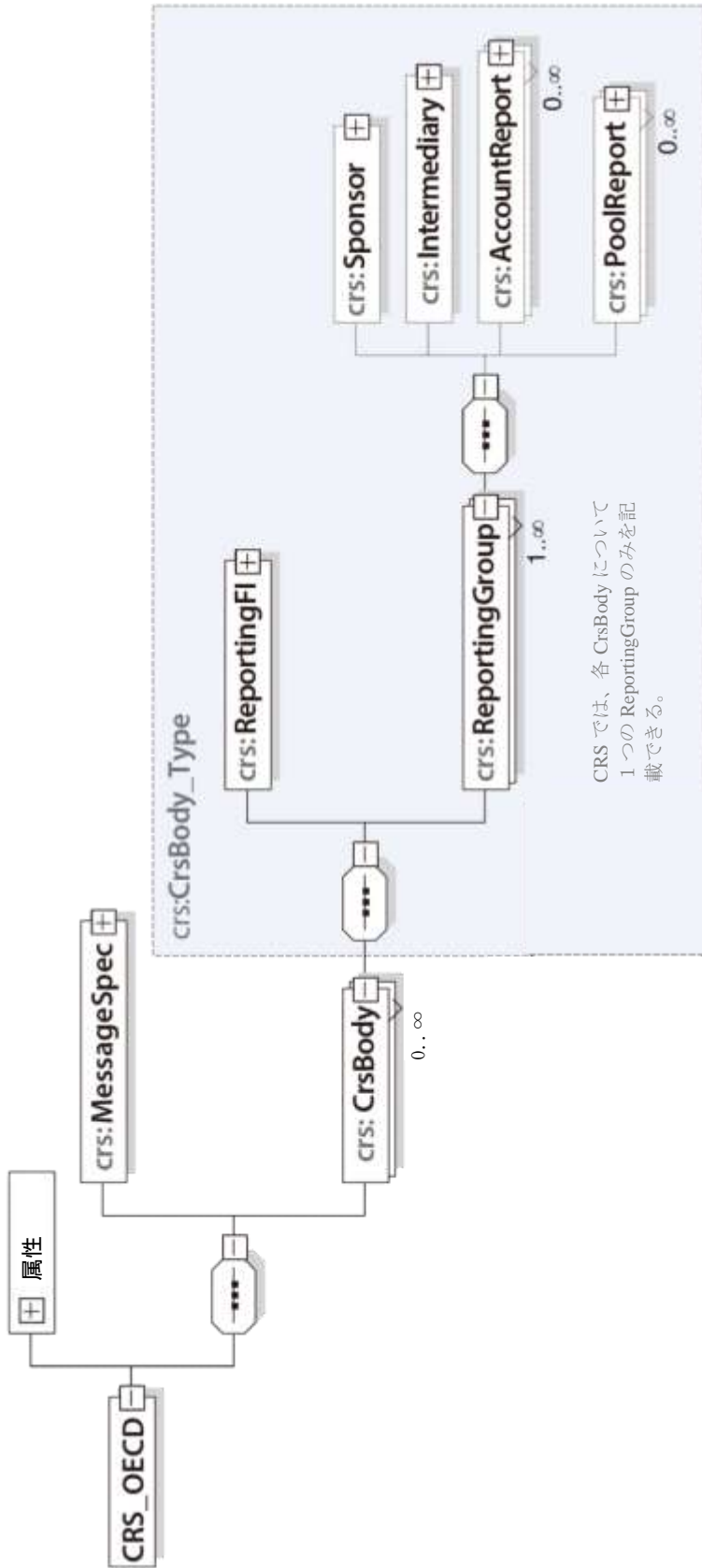
CRS XML スキーマ v.2.0 図



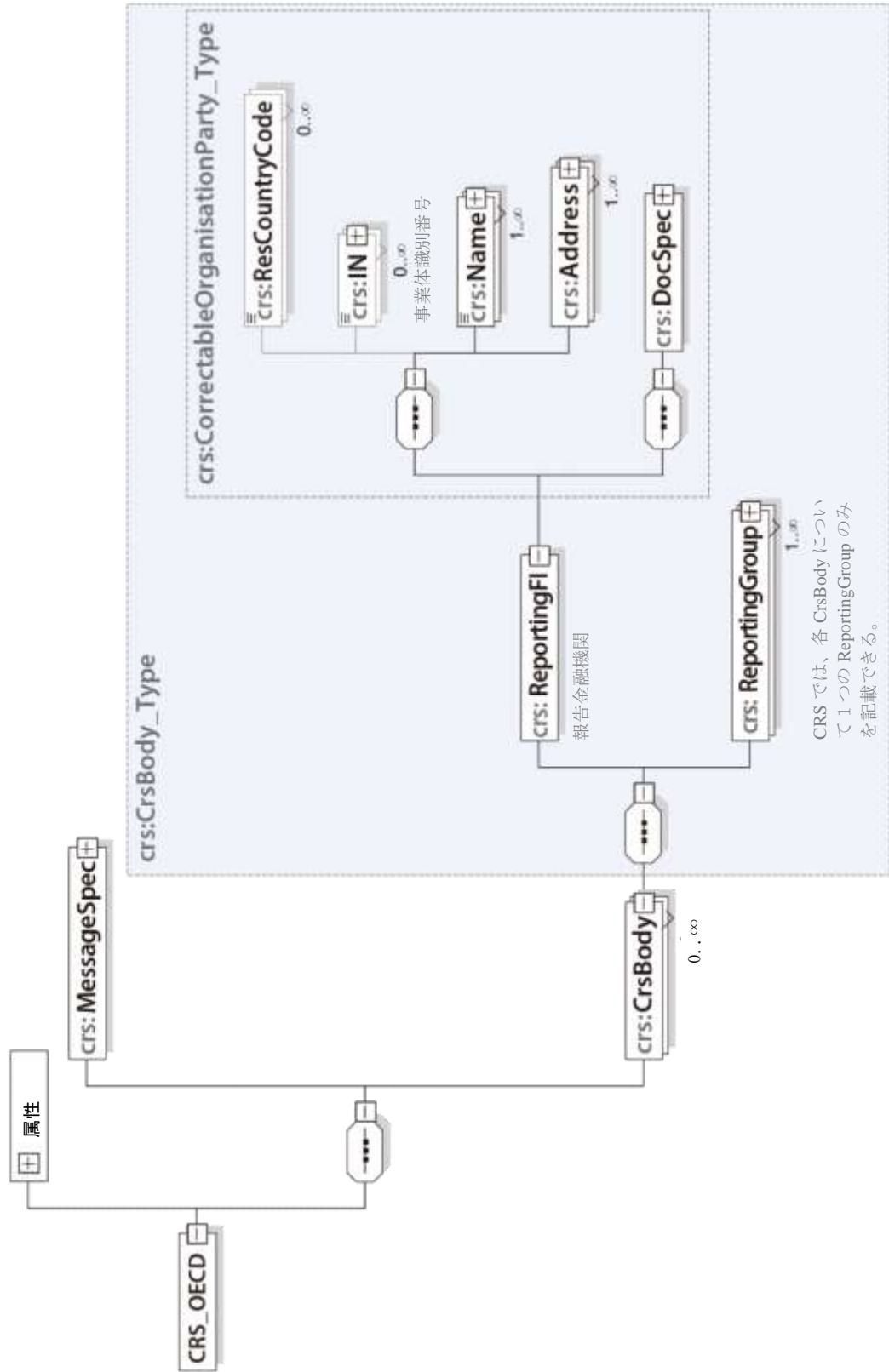
## Message Header (メッセージヘッダー) (セクション 1)



CRS Body (CRS 本文) (セクション 4)

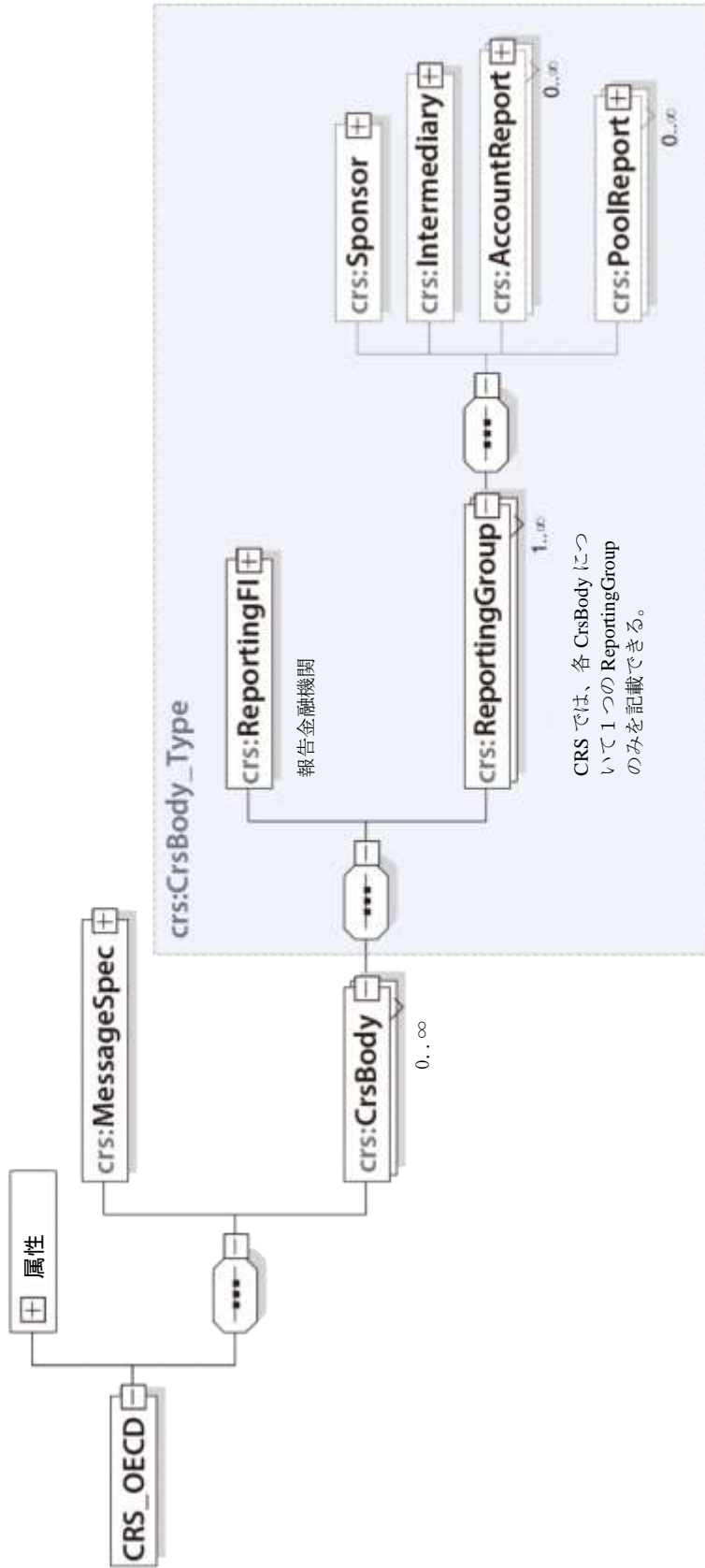


### Reporting FI (報告金融機関) (セクション 4a)

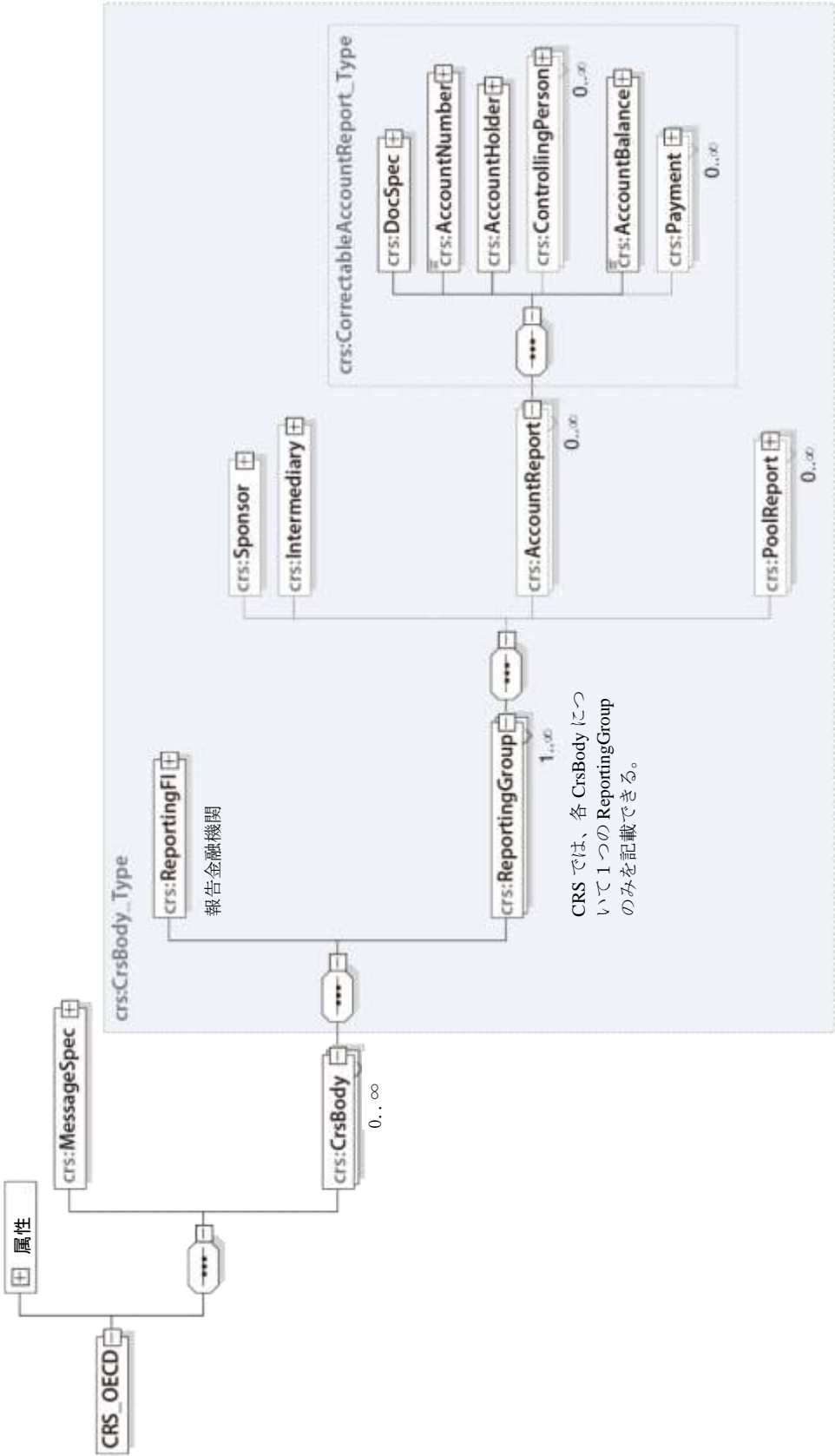




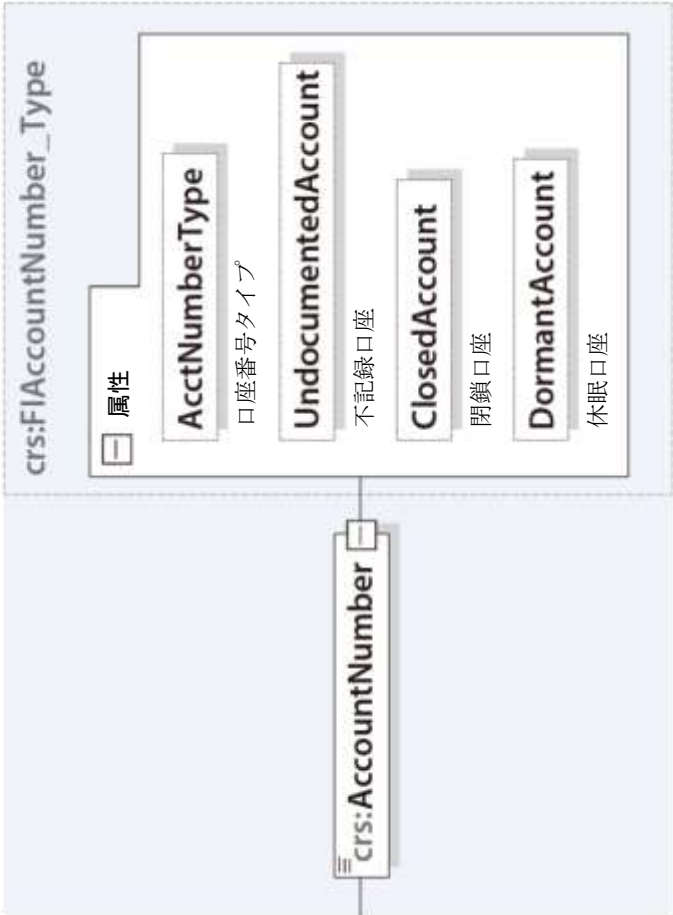
### Reporting Group (報告グループ) (セクション 4b)



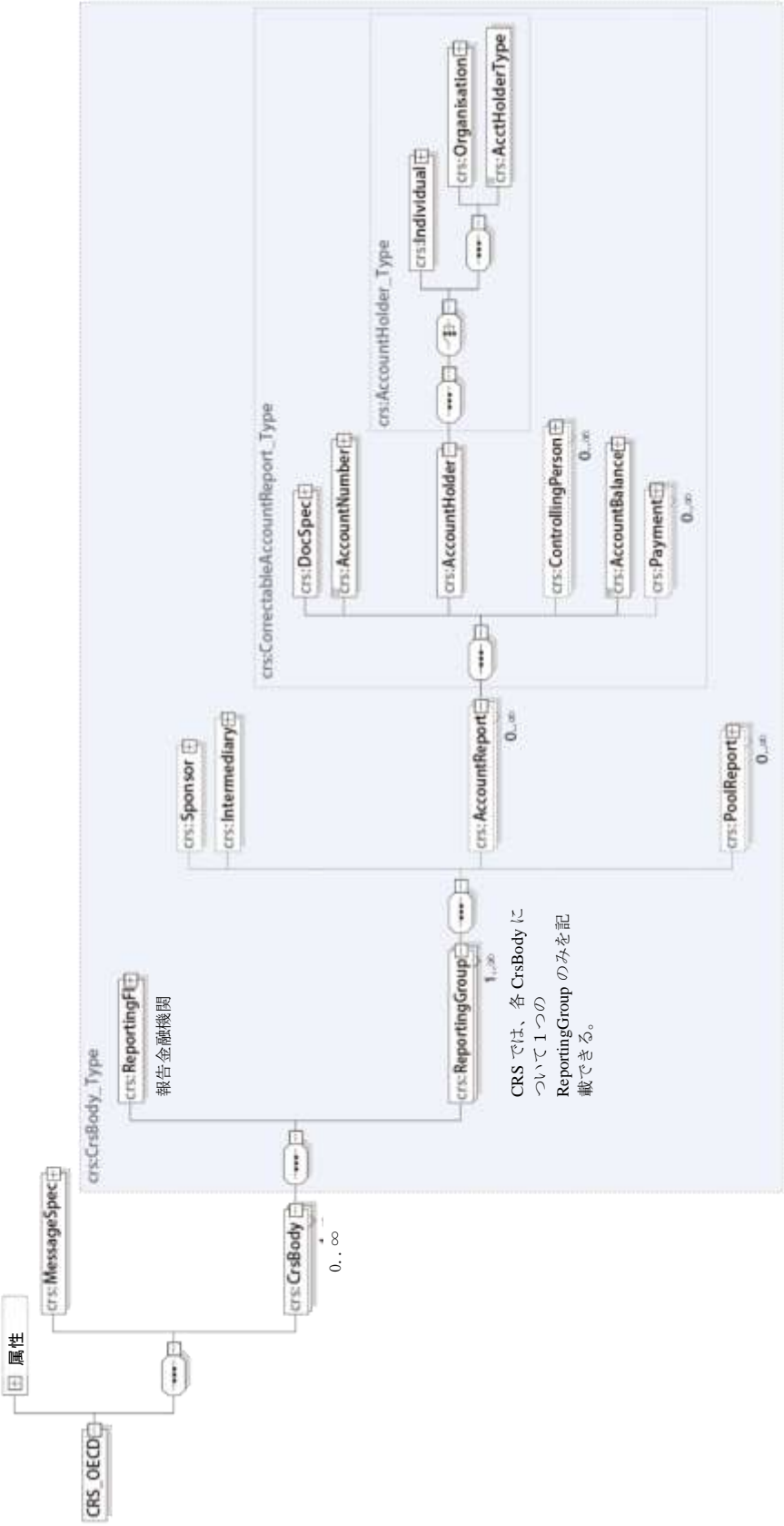
# Account Report (口座報告) (セクション 4c)



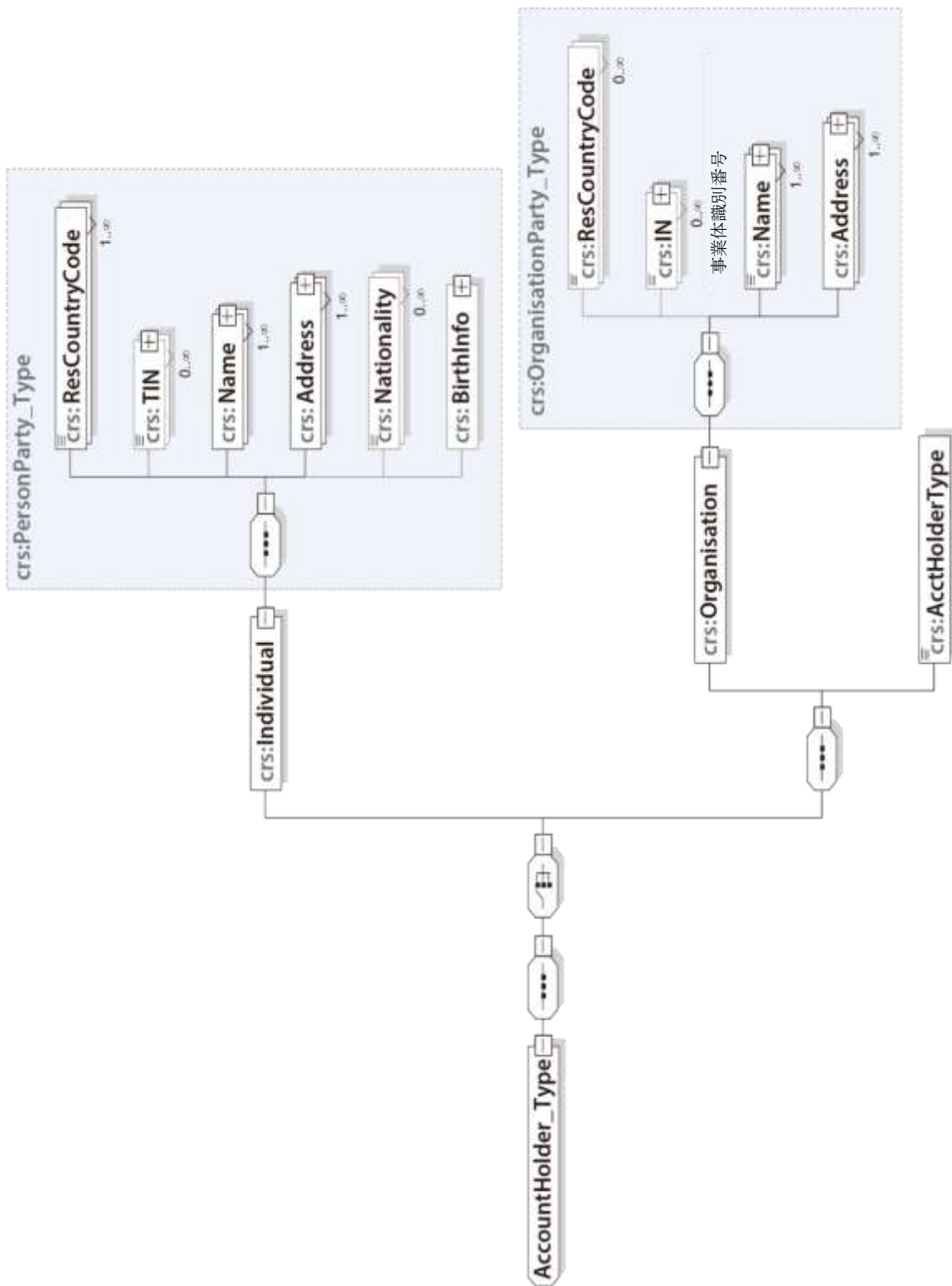
Account Number Type (口座番号タイプ) (セクション 4d)



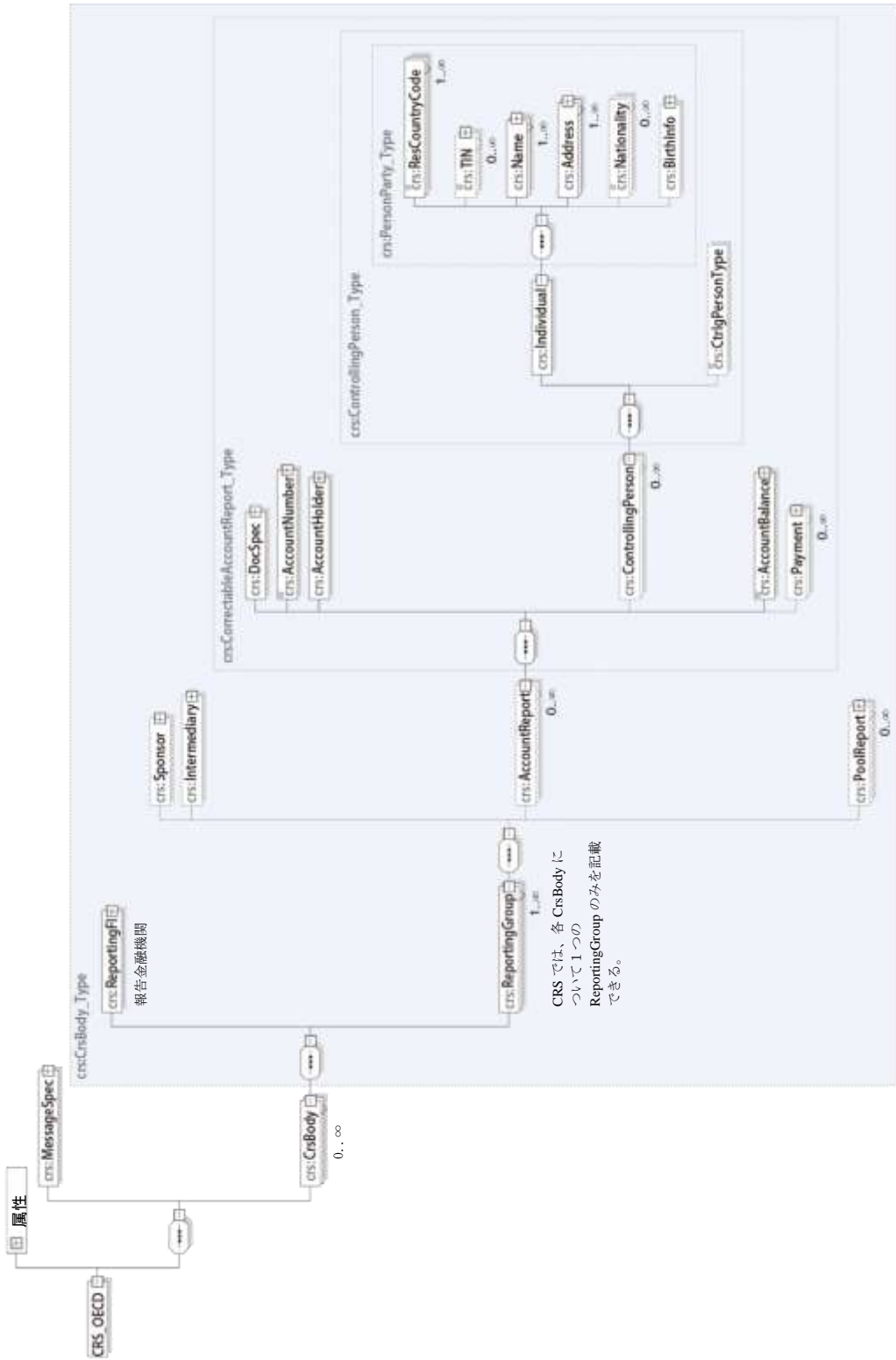
### Account Holder (口座名義人) (セクション 4e)



Individual/Organisation Account Holders (個人/事業体口座名義人) (セクション 4e)

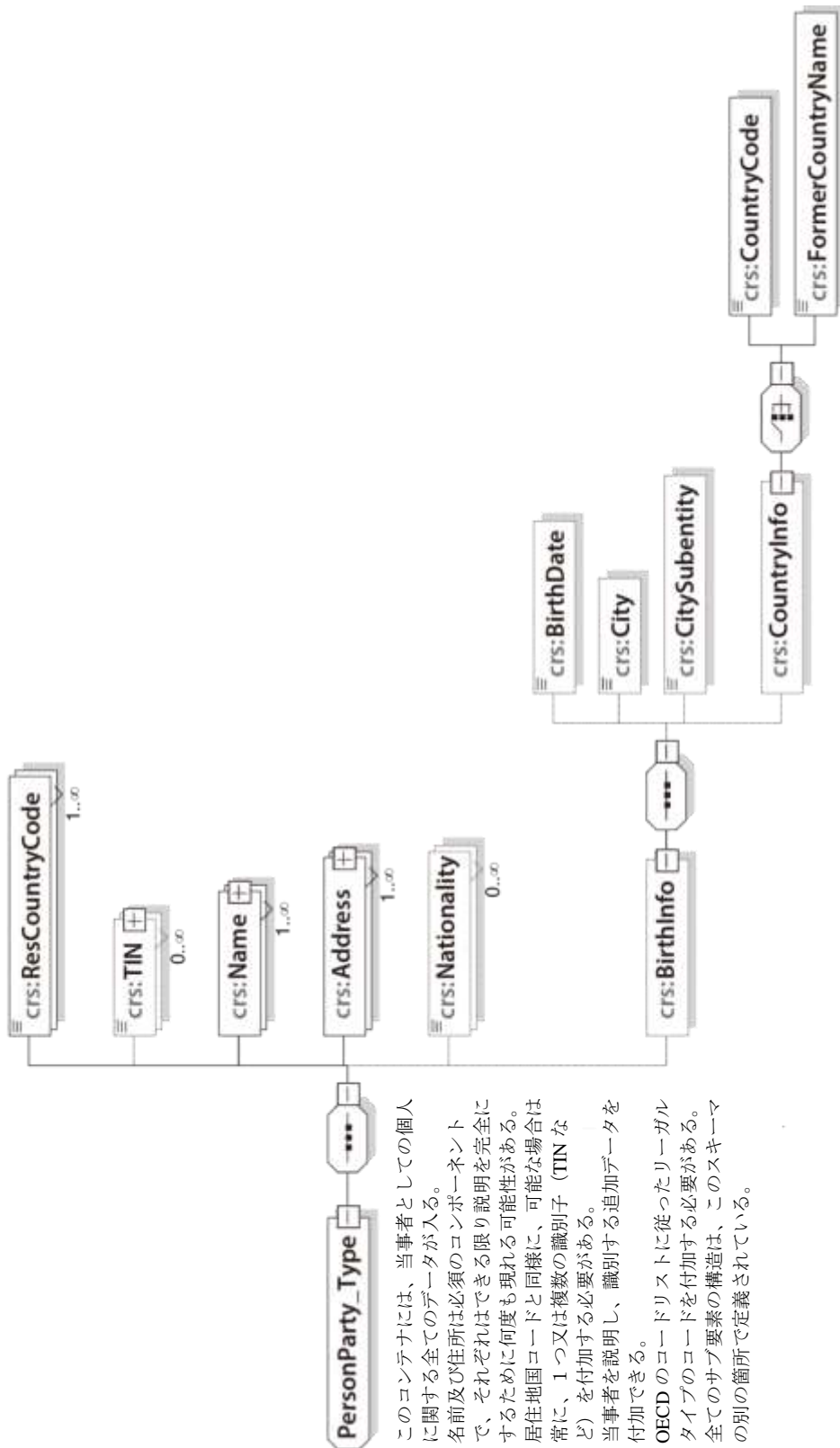


## Controlling Person (実質的支配者) (セクション 4f)





## Person Party Type (個人当事者タイプ) (セクション2)

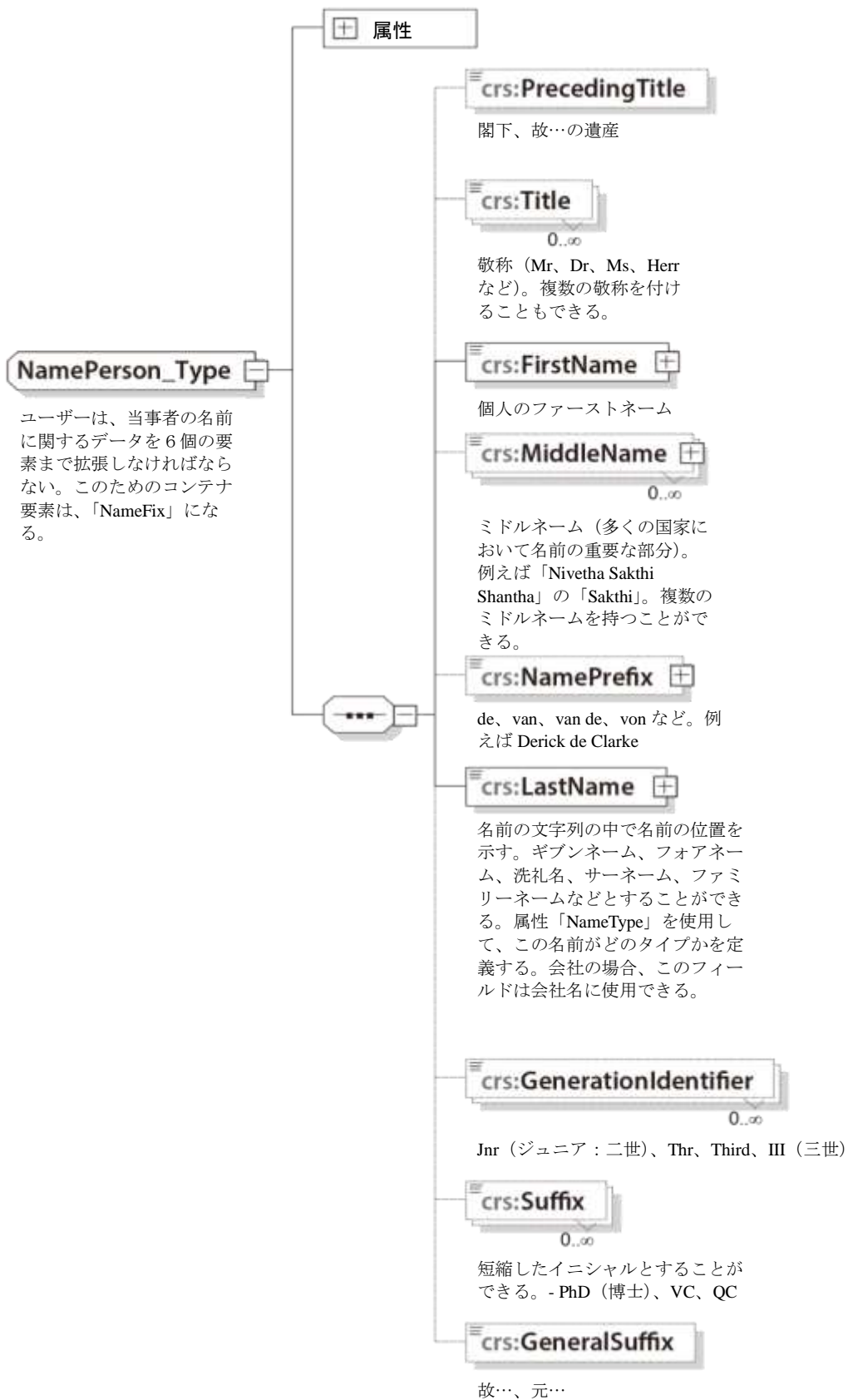


このコンテナには、当事者としての個人に関する全てのデータが入る。名前及び住所は必須のコンポーネントで、それぞれはできる限り説明を完全に、するために何度も現れる可能性がある。居住地図コードと同様に、可能な場合は常に、1つ又は複数の識別子（TIN など）を付加する必要がある。当事者を説明し、識別する追加データを付加できる。OECD のコードリストに従ったリーガルタイプのコードを付加する必要がある。全てのサブ要素の構造は、このスキーマの別の箇所で定義されている。

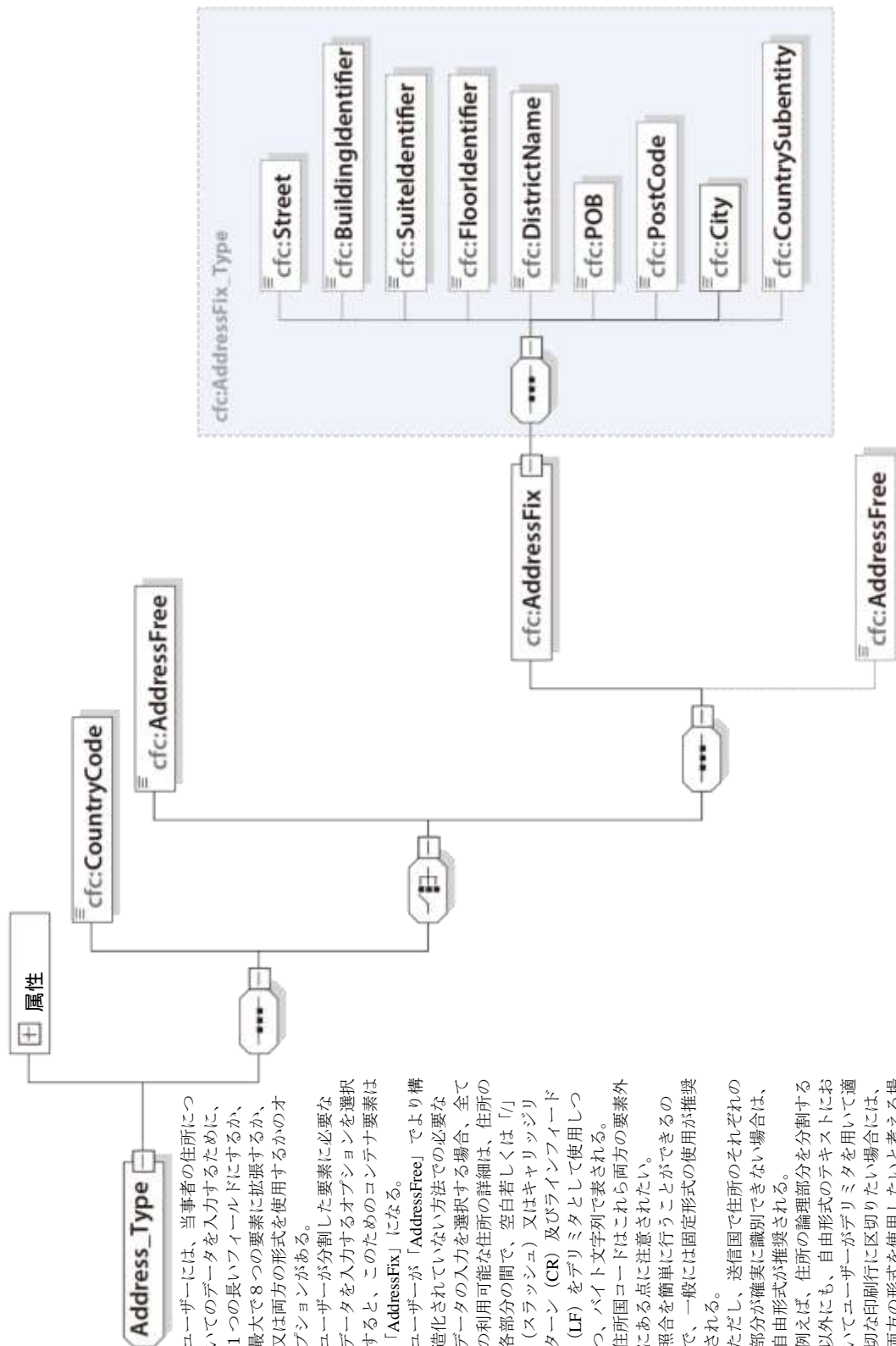
実務上の理由により、ResCountryCode リストは ISO3166-1 国名コードリストに基づいており、これは現在銀行及びその他の金融機関が使用しており、したがって税務当局も使用している。当該リストを使用することによって、OECD は、掲載されている地域の法的地位に関連して何であれいかなる意見を表明することも示唆するものではない。当該リストの内容は、いかなる地域に関する地位又は主権、国際的な境界及び国境の画定並びにいかなる地域、都市又は区域の名称にも何らの影響を与えない。



## Person Name Type (個人名タイプ)



## Address Type (住所タイプ)



ユーザーには、当事者の住所についてのデータを入力するために、1つの長いフィールドにするか、最大で8つの要素に拡張するか、又は両方の形式を使用するかオプションがある。

ユーザーが分割した要素に必要なデータを入力するオプションを選択すると、このためのコンテナ要素は「AddressFix」になる。

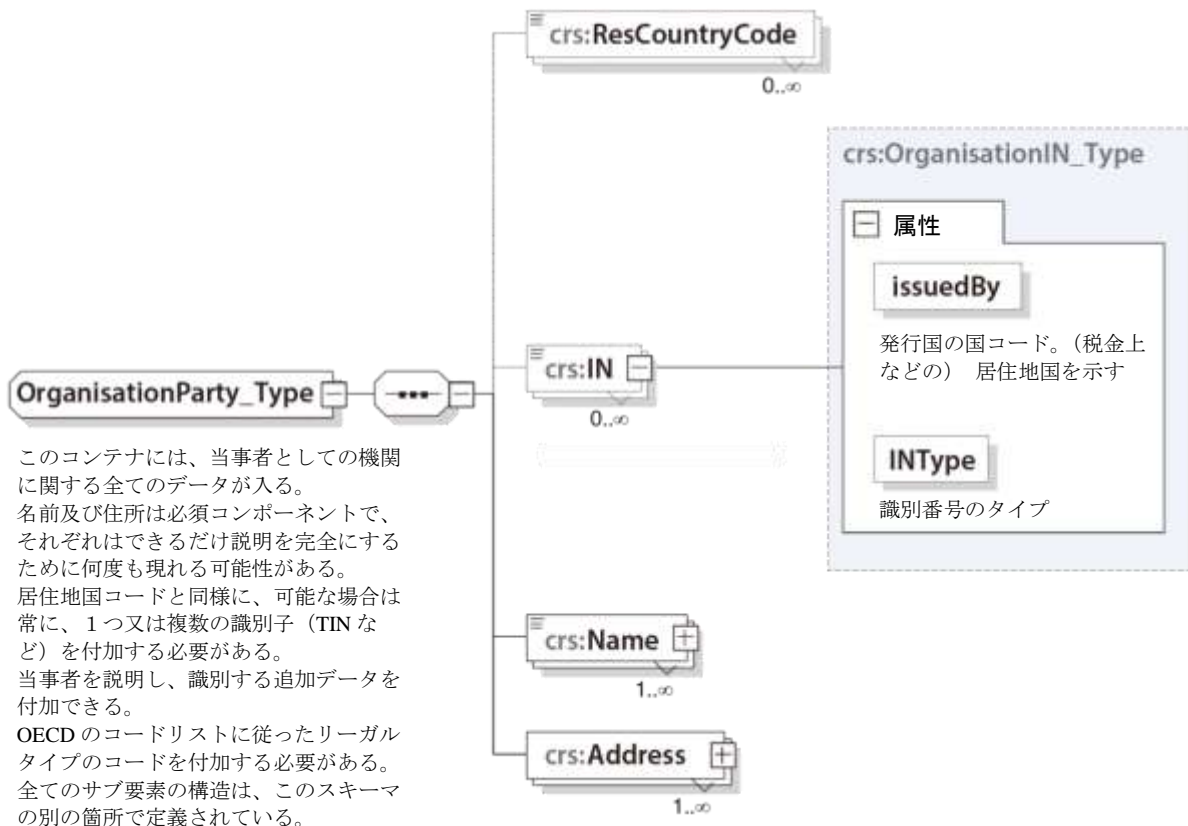
ユーザーが「AddressFree」でより構造化されていない方法での必要なデータの入力を選択する場合、全ての利用可能な住所の詳細は、住所の各部分の間で、空白若しくは「/」（スラッシュ）又はキャリッジリターン（CR）及びラインフィード（LF）をデリミタとして使用しつつ、バイト文字列で表される。

住所国コードはこれら両方の要素外にある点に注意されたい。照合を簡単に行うことができるので、一般には固定形式の使用が推奨される。

ただし、送信国で住所のそれぞれの部分が確実に識別できない場合は、自由形式が推奨される。例えば、住所の論理部分を分割する以外にも、自由形式のテキストにおいてユーザーがデリミタを用いて適切な印刷行に区切りたい場合には、両方の形式を使用したいと考える場合もある。

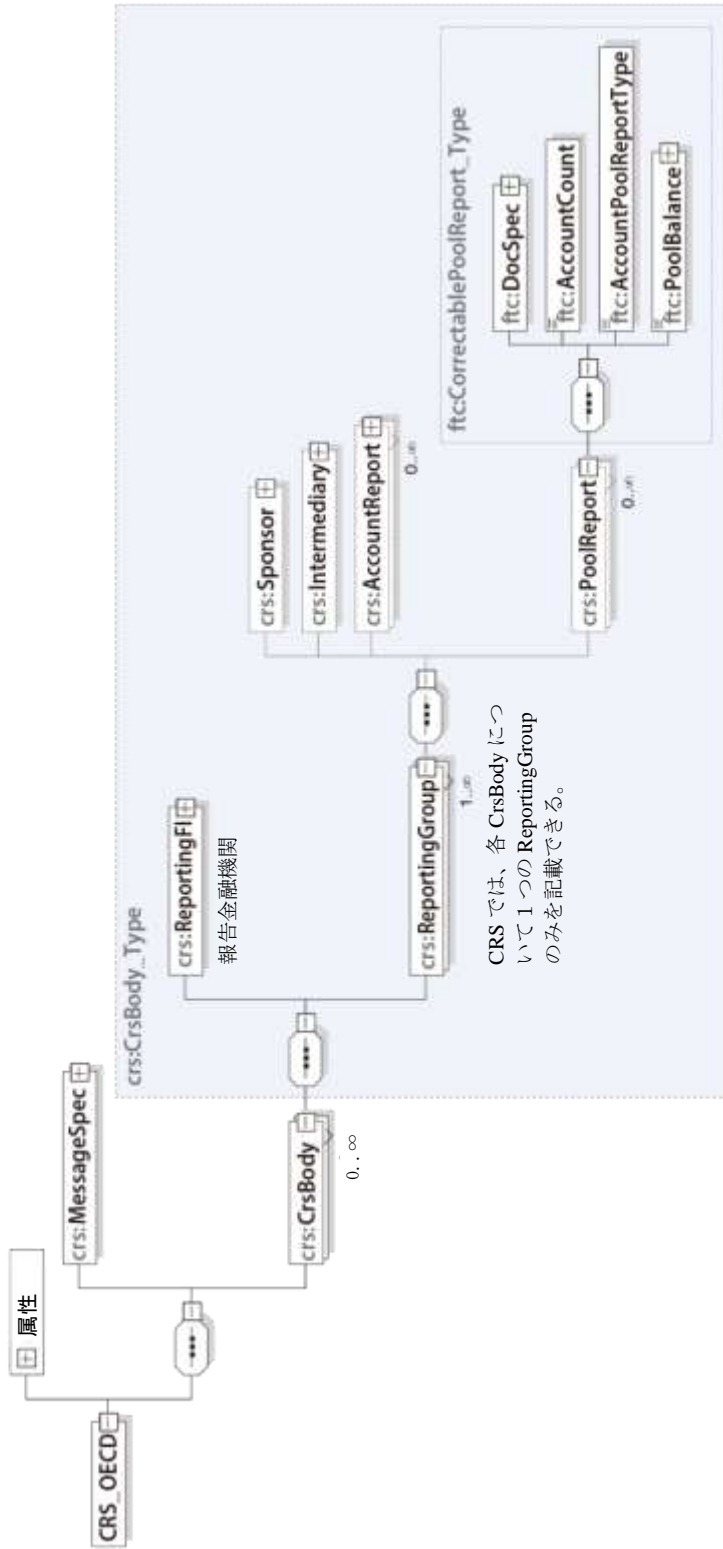
この場合には、「AddressFix」が「AddressFree」に優先しなくてはならない。

## Organisation Party Type (事業者当事者タイプ) (セクション 3)

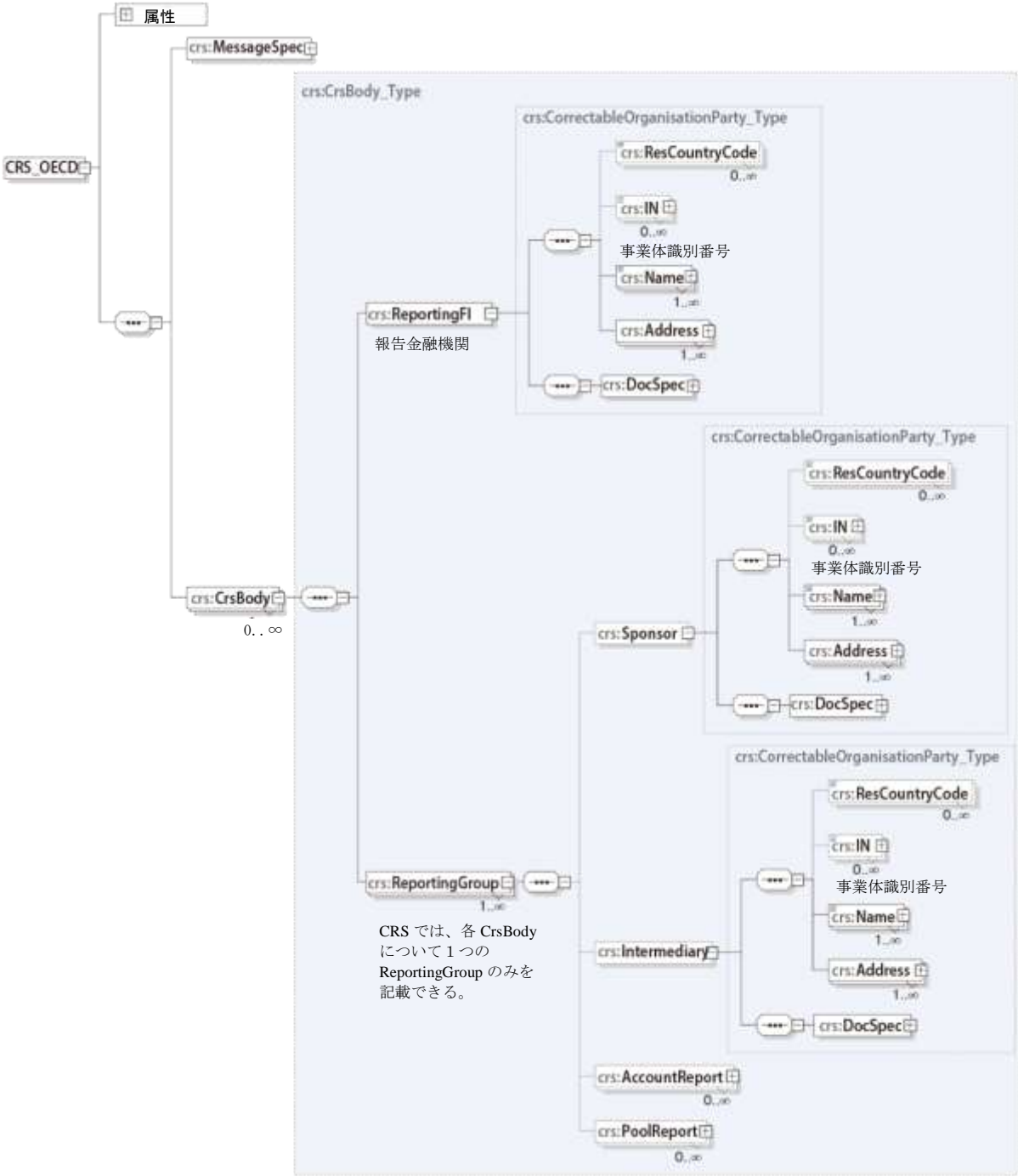


実務上の理由により、ResCountryCode リストは ISO3166-1 国名コードリストに基づいており、これは現在銀行及びその他の金融機関が使用しており、したがって税務当局も使用している。当該リストを使用することによって、OECD は、掲載されている地域の法的地位に関連して何であれいかなる意見を表明することも示唆するものではない。当該リストの内容は、いかなる地域に関する地位又は主権、国際的な境界及び国境の画定、並びにいかなる地域、都市又は区域の名称にも何らの影響を与えるものではない。

## Pool Report (プール報告) (Non - CRS) (セクション 4i)



### Sponsor & Intermediary（スポンサー及び中継者）（Non - CRS）



## 付属書 B

### 名前空間の用語集

#### CRS スキーマの名前空間

名前空間	説明	ファイル名
crs	CRS に固有のタイプ	CrsXML_v2.0.xsd
cfc	FATCA 及び CRS に共通のタイプ	CommonTypesFatcaCrs_v2.0.xsd
ftc	FATCA に固有のタイプ	FatcaTypes_v1.2.xsd
stf	OECD に共通するタイプ	OECDCrstypes_v5.0.xsd
iso	ISO タイプ (国及び通貨コード)	isocrstypes_v1.1.xsd